



特別
~5
6700
3



頁
八五
6700
3



馬田江



八二



蟻通奉紙

夏姑管絃

引立

りや

安乃新



芦文



今折々

水と

桑子

あつさ

あつさ



八二



梅別

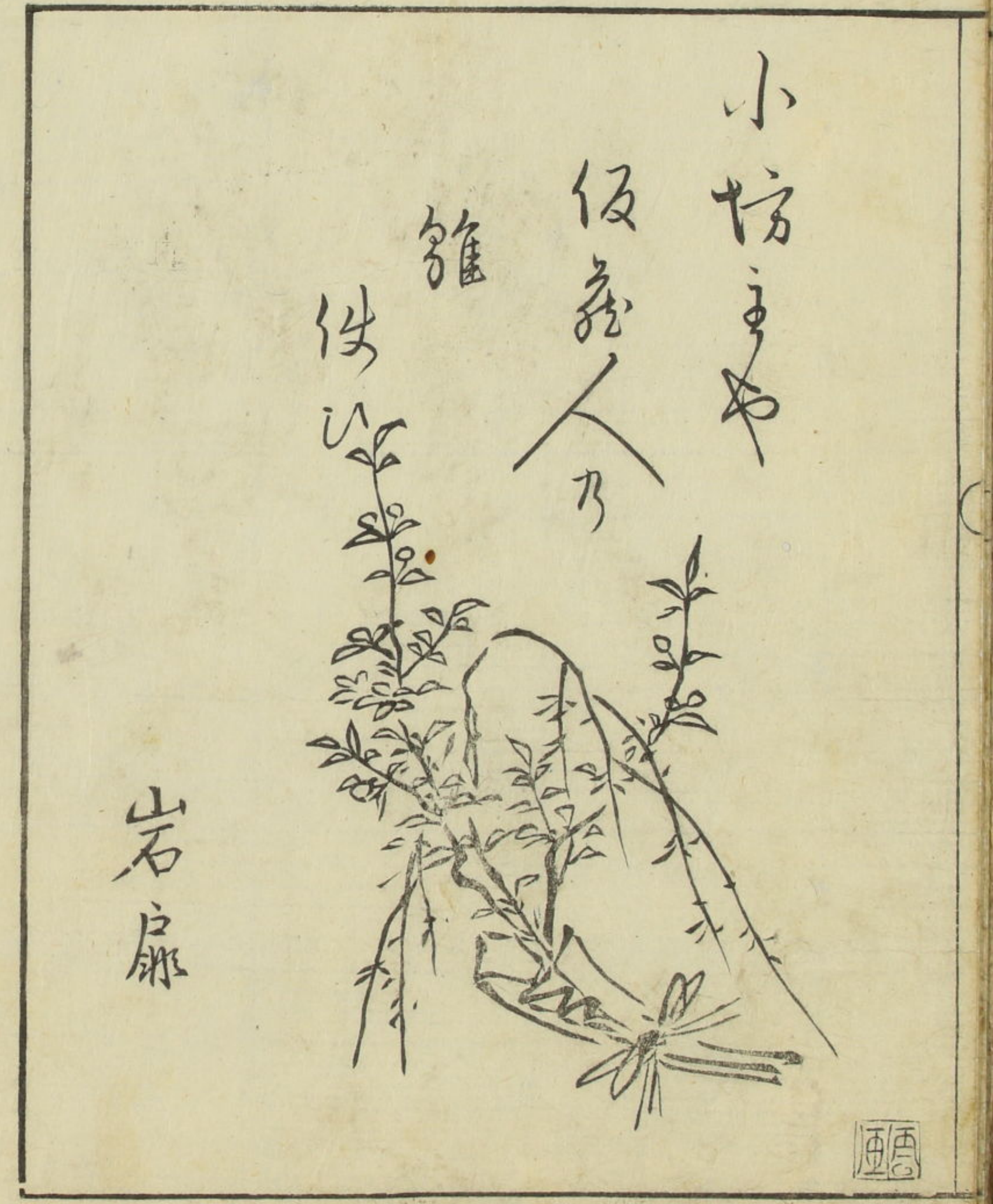


瀟如吐玉岩
 乙加子也
 市每花

君里



▲八三



小坊主
 似
 雛
 人乃

岩扉



清馳走ハ

昆布子

山柳

巨燻うま

司鳴改

我鴛上



西園

△八四

大らしのまらおを

おくられーん

其えん事さ
凡けんんも

穴うおや花の

ゆる目乃

ぬま

も子



吉音

黄令

花とえく

風ふ眾多

葉鶏頭



葦江



放免乃

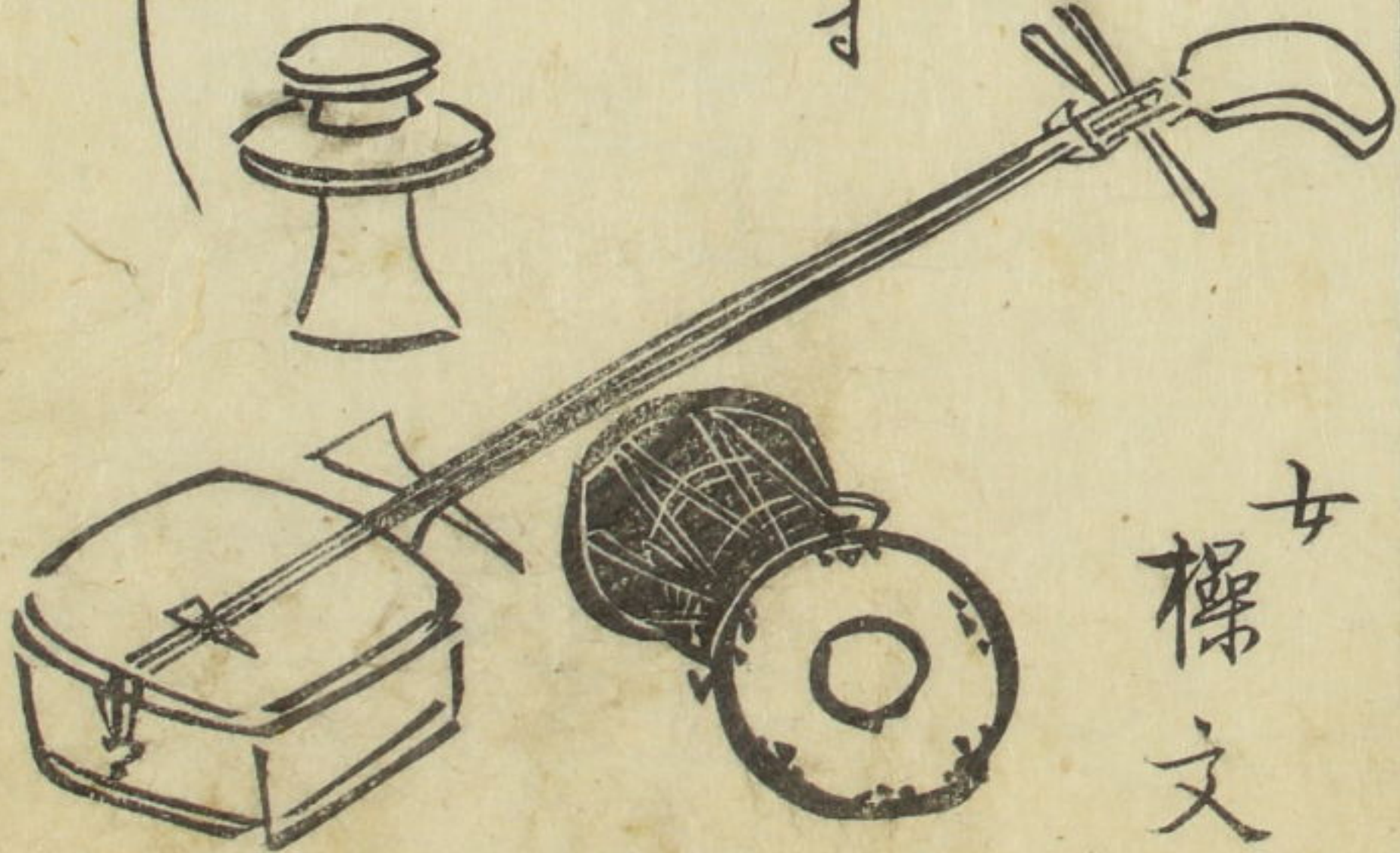
時多物と

是寸

出女如

如
如
以
長

美
作
り
里



女
標
文

▲八五









柳の
 葉の
 ちり
 角
 の
 ぬ

上席南

自画



▲八八



朝
 夕
 くら
 ぶ
 さん
 中
 夜
 魚

柳

榎





あふこ

川柳

川柳

女
哥
恋



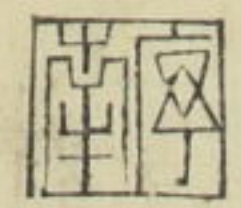
我
白
の

好
不
流
る

素
月

好
不
流
る

一
う
那



文行亭
之地

水色

水色

源



八十

菊の雪より
水仙の雪より
白開花

佛保途

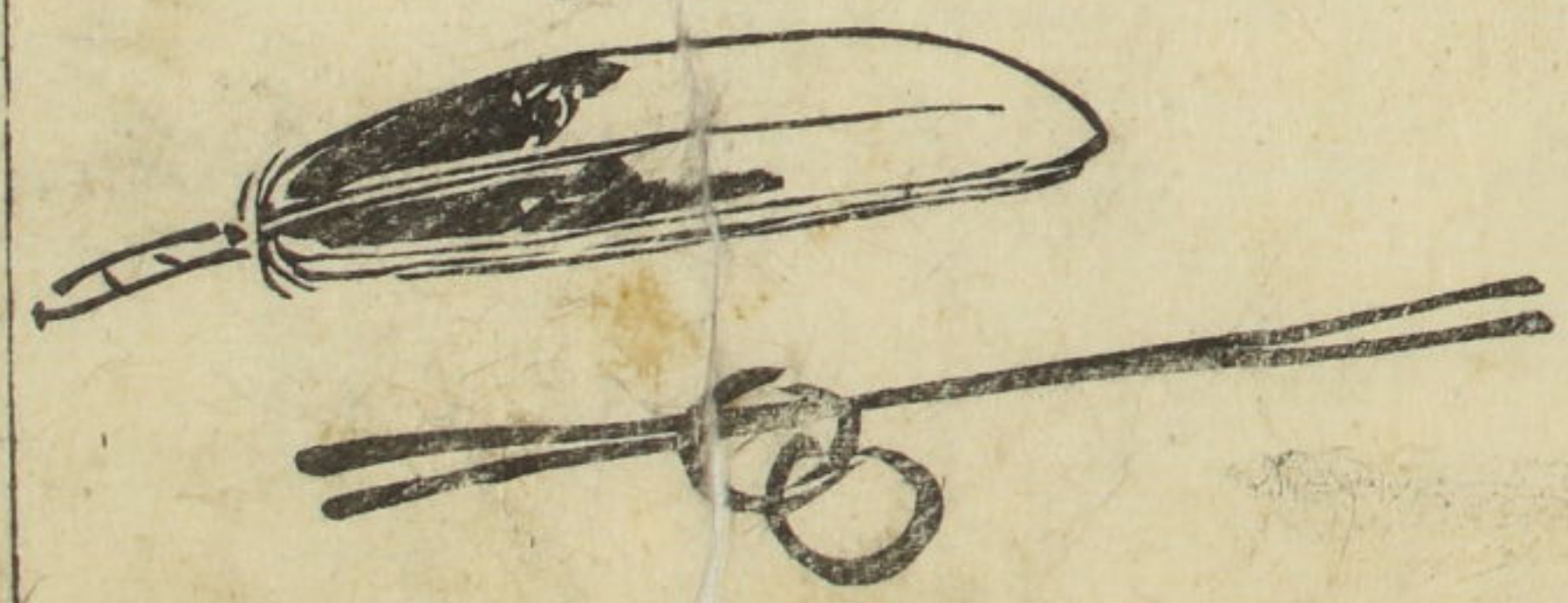
桑農

之町

後

和列葛城林

猪鹿齋



山埋之

雪子

生

ル

う



和列十カウ

青柳舎

涼風



一州令主人

真如の孟

友らと一敵

敵

山の家

直

照葉

如妙菩提

車輪軒

吉歌





和初三室
竹樹館
水々々々
牛歯々白
峯磨
雪水色



葛城岩櫓の吟
あまの夜
神志路



知初ナカラ
秋立舎
雪山



女御更衣

大正天皇御

大正良茶
舟



同前
章輔



世の心

海苔の味

松小

和州中取
小澤氏武昭





和州地定村
 月亦堂
 於一也心
 月亦堂
 心亦亦
 能心凌



遠き名紙
 誰か
 付々
 菊
 花

友志



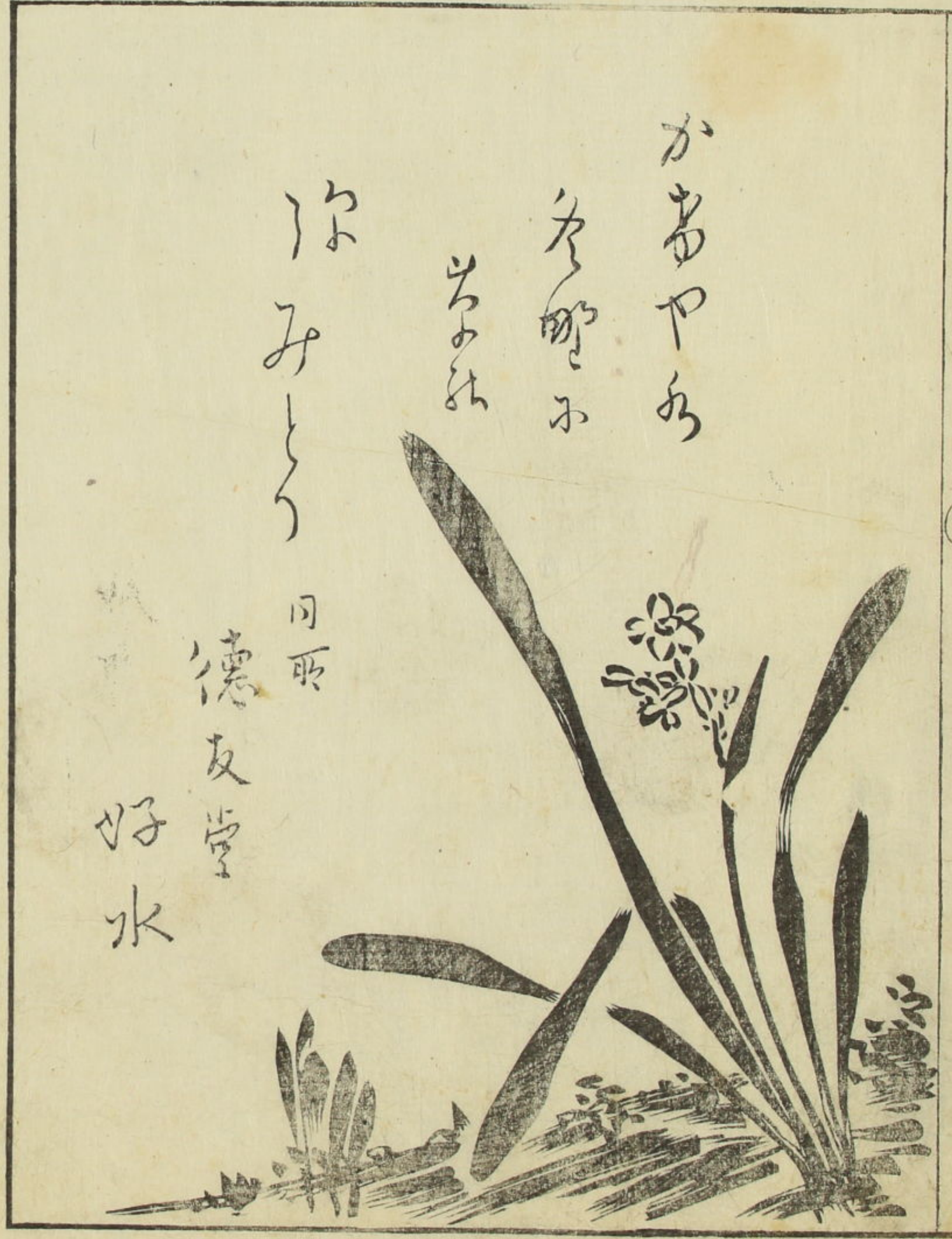
寶ハ集リ

一ツカク繕々

瓢ウラ

叙夕

▲八十五



かきやあ

えりあ

あふあ

みしう

同取

徳友堂

好水



月乃燈籠 晚鈴

入る星の

は、笑ふ



初月よ

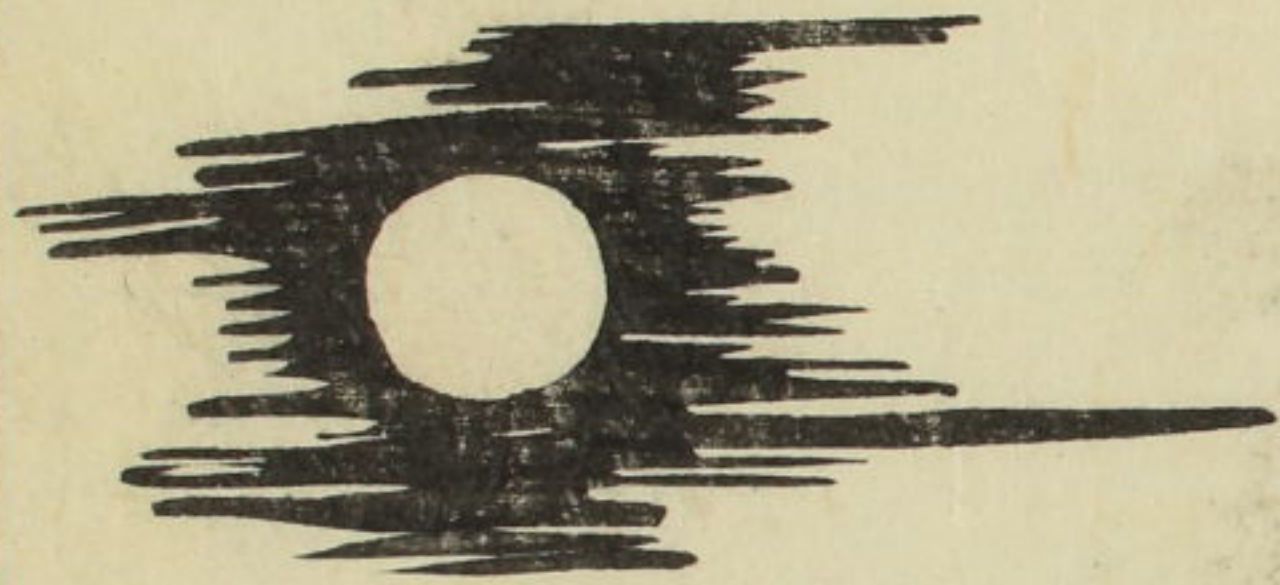
七夕

書

水亭たり

巴桃





少年
火を

壺の

うら



農日

同所
歌
刀
刃



▲八十七

聖農

志を突く

雉子の声

くわ

河及植松

如巴

画





四ッ指

音々々

つやを

植く足玉

松調軒

重細



かゝる

山

鳴

辺

日乃

葉

同所松軒

玉路





能因の川の
 園の詠いんを
 坊主の集
 況や
 在変しつるを
 老をいふや
 此夜いふは
 ありい出られ
 強きあり

観とれり

離れしき
 木の

月見会

津軽旅館

猪夫



花ふきや

何ふ

はりの海

果報
 若

千漁齋

夕山





探石

流連奇
 美乃
 字一路
 芥川



▲八木



彈カ
 月ト我ト
 叙

月ト我ト

叙

叙

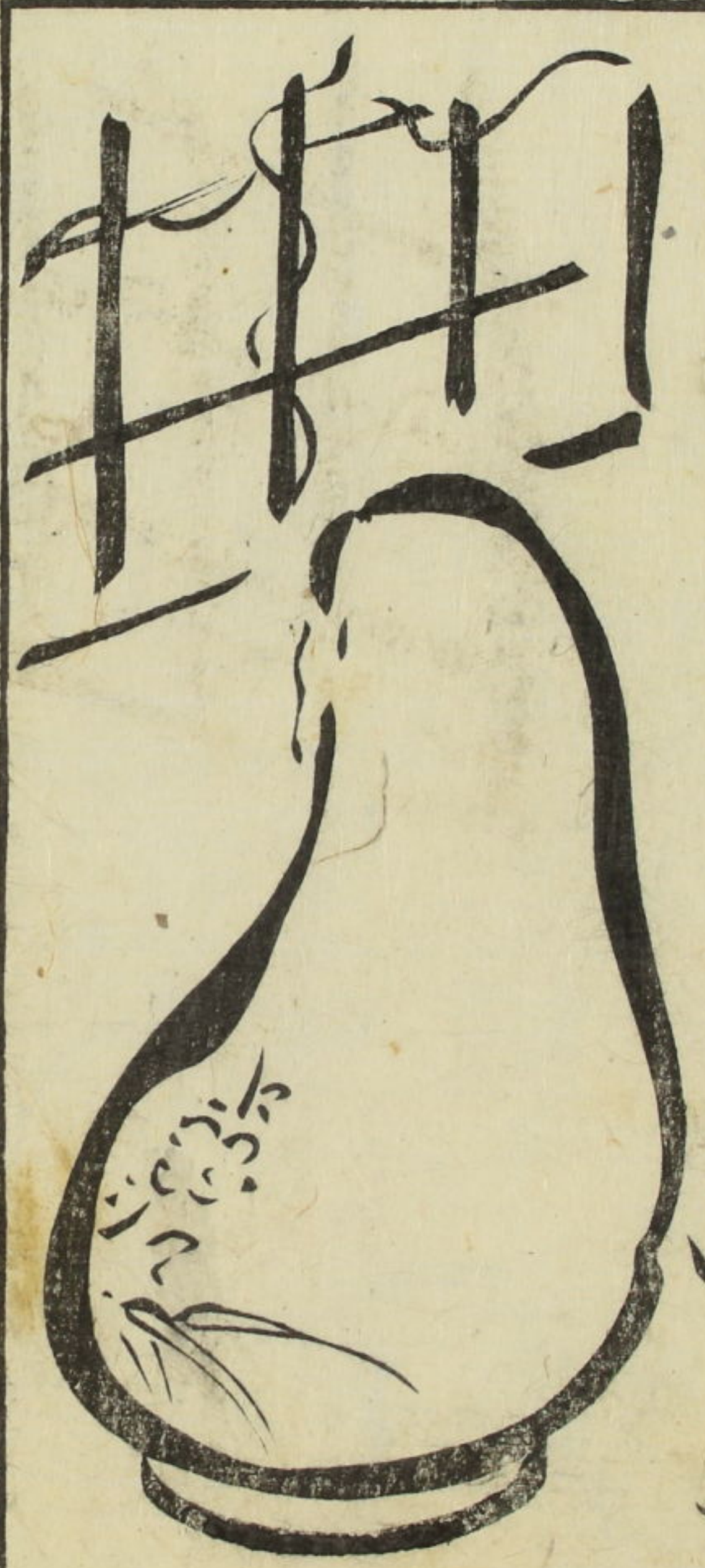


起るる

又麻 須乃乃

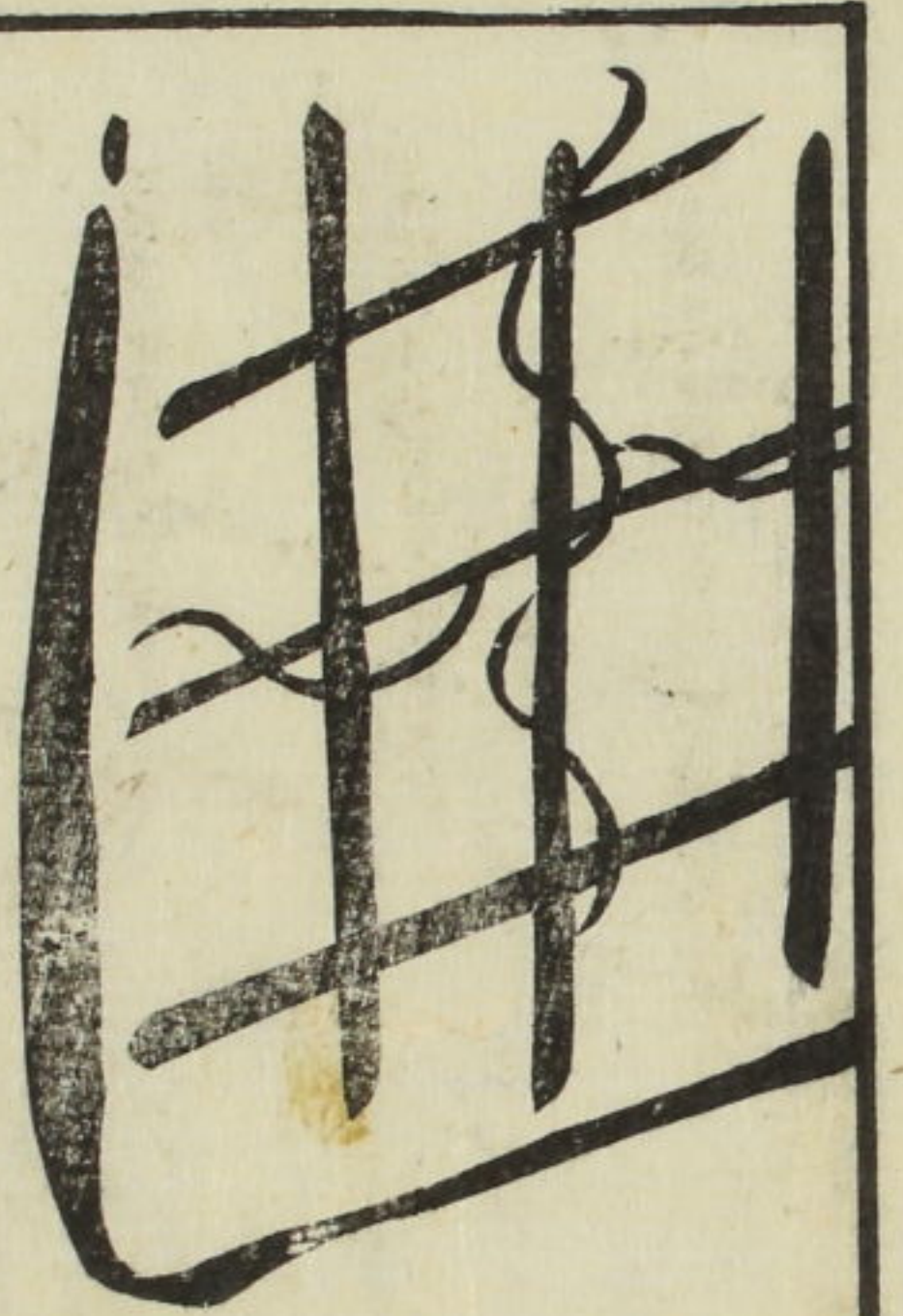
時ふが

文帳



▲八十一

芦 野



時ふが

かたが

北の窓の





友人

梅枝

翠一

極可久



陶淵明也若此園

愉々舎

芦葉

八才二

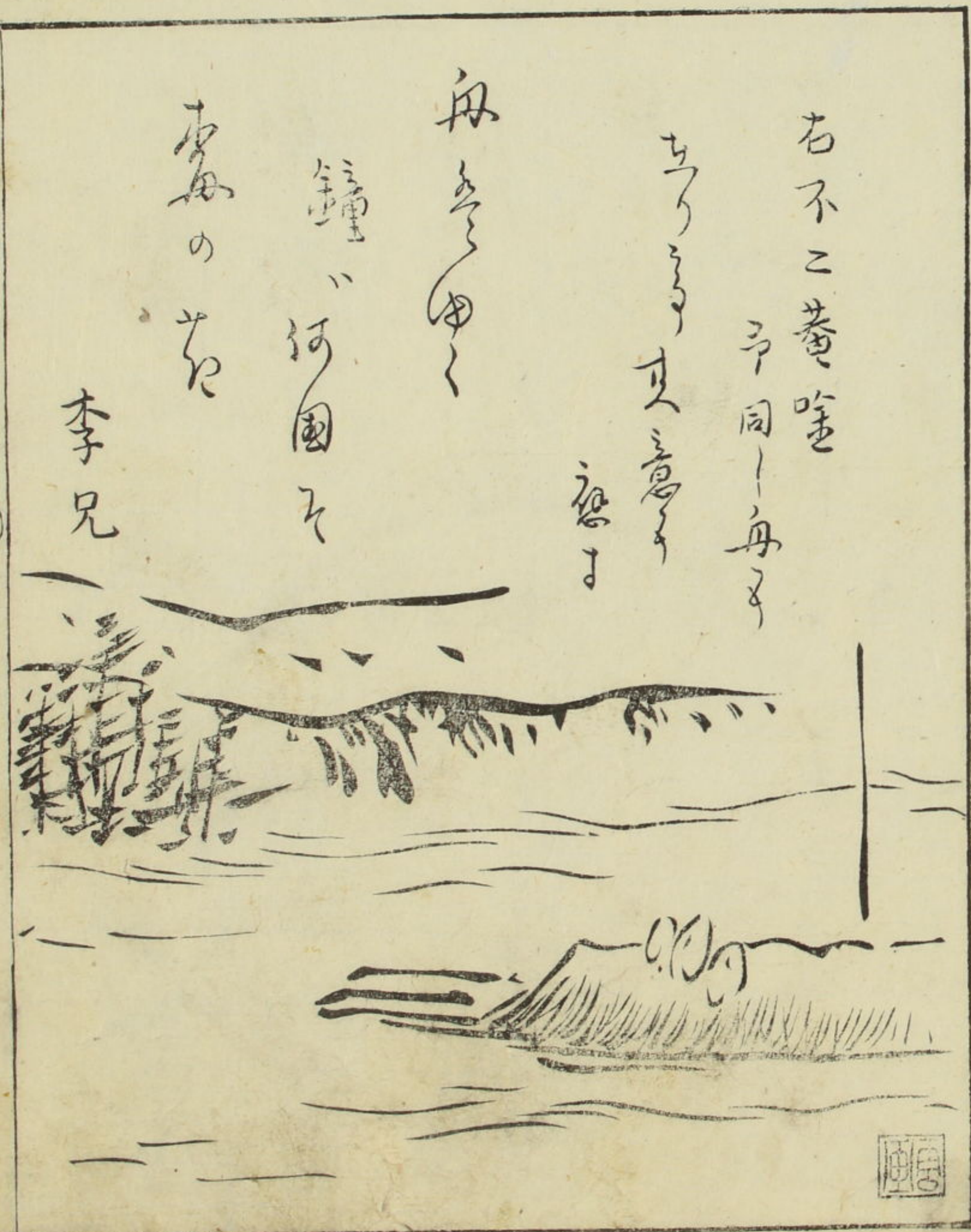
明星也
月孤
出也
向子
卷
とが



序南



春日奠川浮舟
 東風送暖水雲閑
 兩岸梅香、斑
 日暮鐘聲河處起
 蒼窻回首月離山



右不二黃卷

予同一舟

其意

意

舟

鐘、河園

東風のそよ

李兄



風子片色

增白裸也

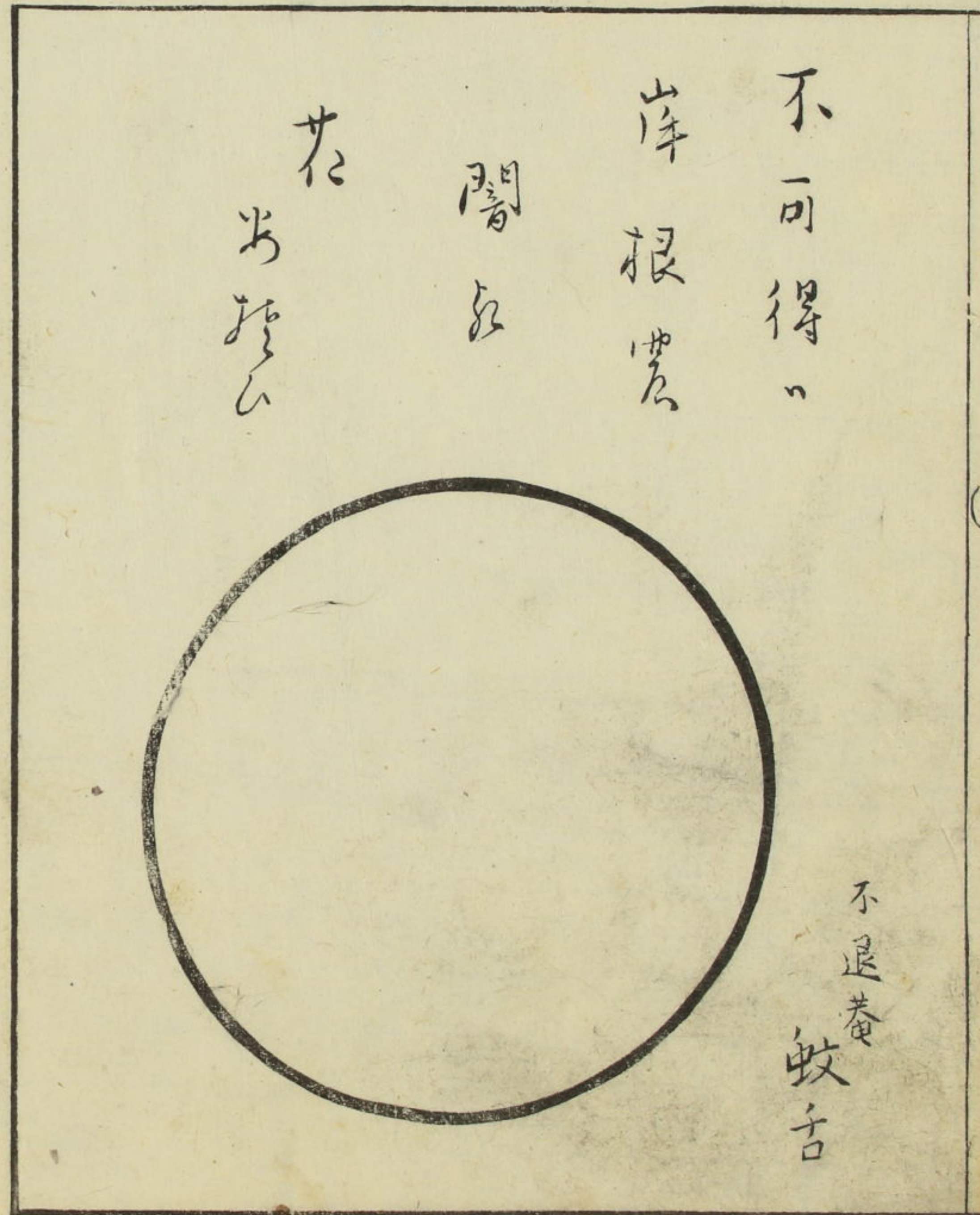
高一坊主

能勢高代

光石



▲八下四



不可得

岸根實

閨紅

花

出於心

不退養

蚊舌

甲の松と花と

只の何と花と

急須

うゑ



多田上塾
啼雲舎

素桂

▲八木五

白雨を擲るは花と
井の白うゑ

多田下原

湖島





舟
か
り
の
人
夕
す
ま
り

明石雜南亭

沔水

八十六



深
分
一
多
乳
世
舟
山
履
下
駟

明石
成朗軒

水順



阿波の
 言葉の花
 黒川新書



田尻氏
 芦波

▲八亦七



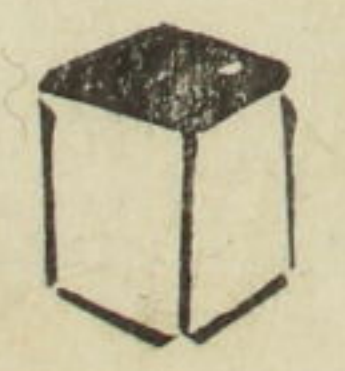
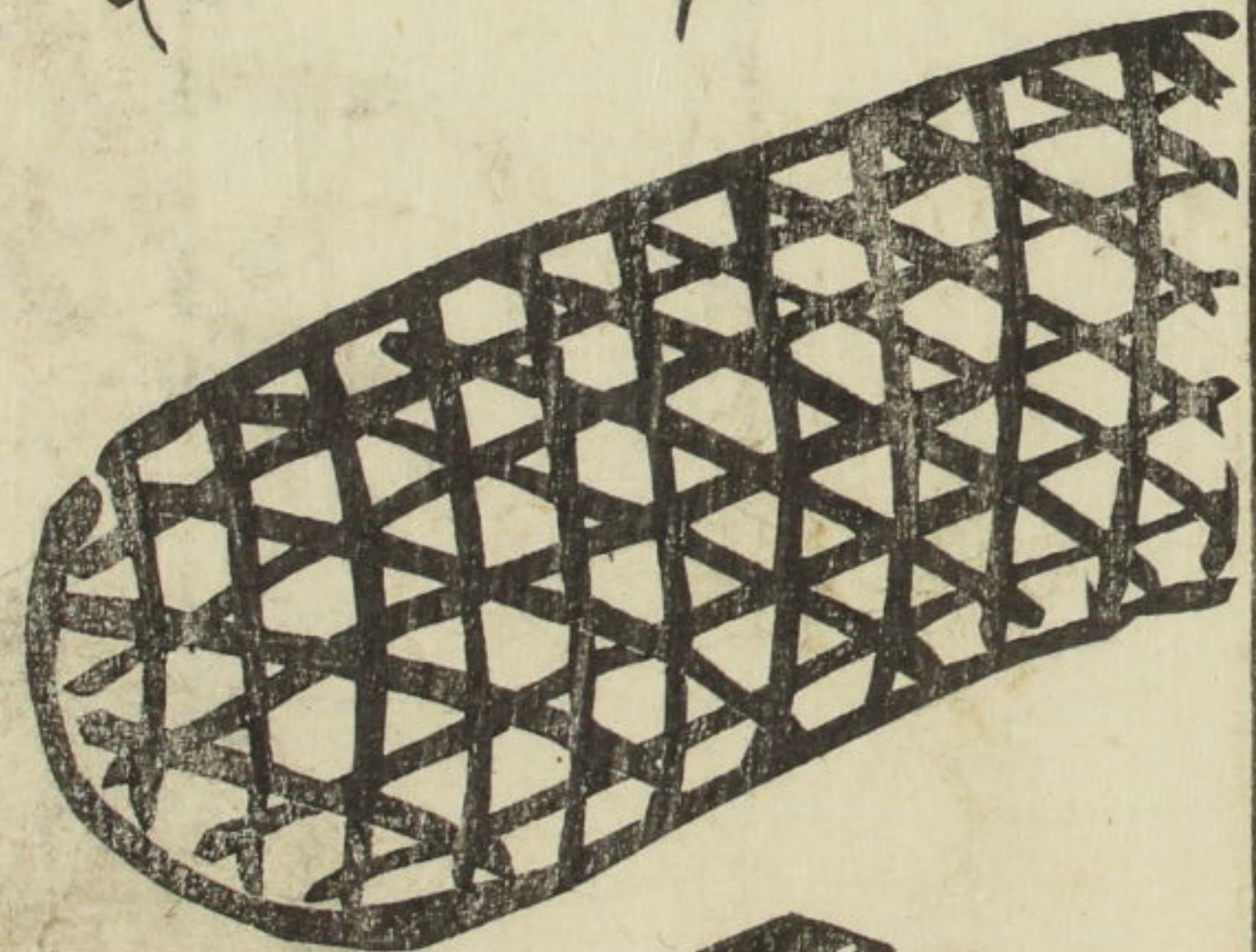
五子いさゝか
 里色

全南朝館



玉
 影
 此

身
 白紙に
 如く
 車川や
 抱膝一



松井
 如志
 栖



▲八十八

葉不熟休や熟とて

およしの月如や



坂南

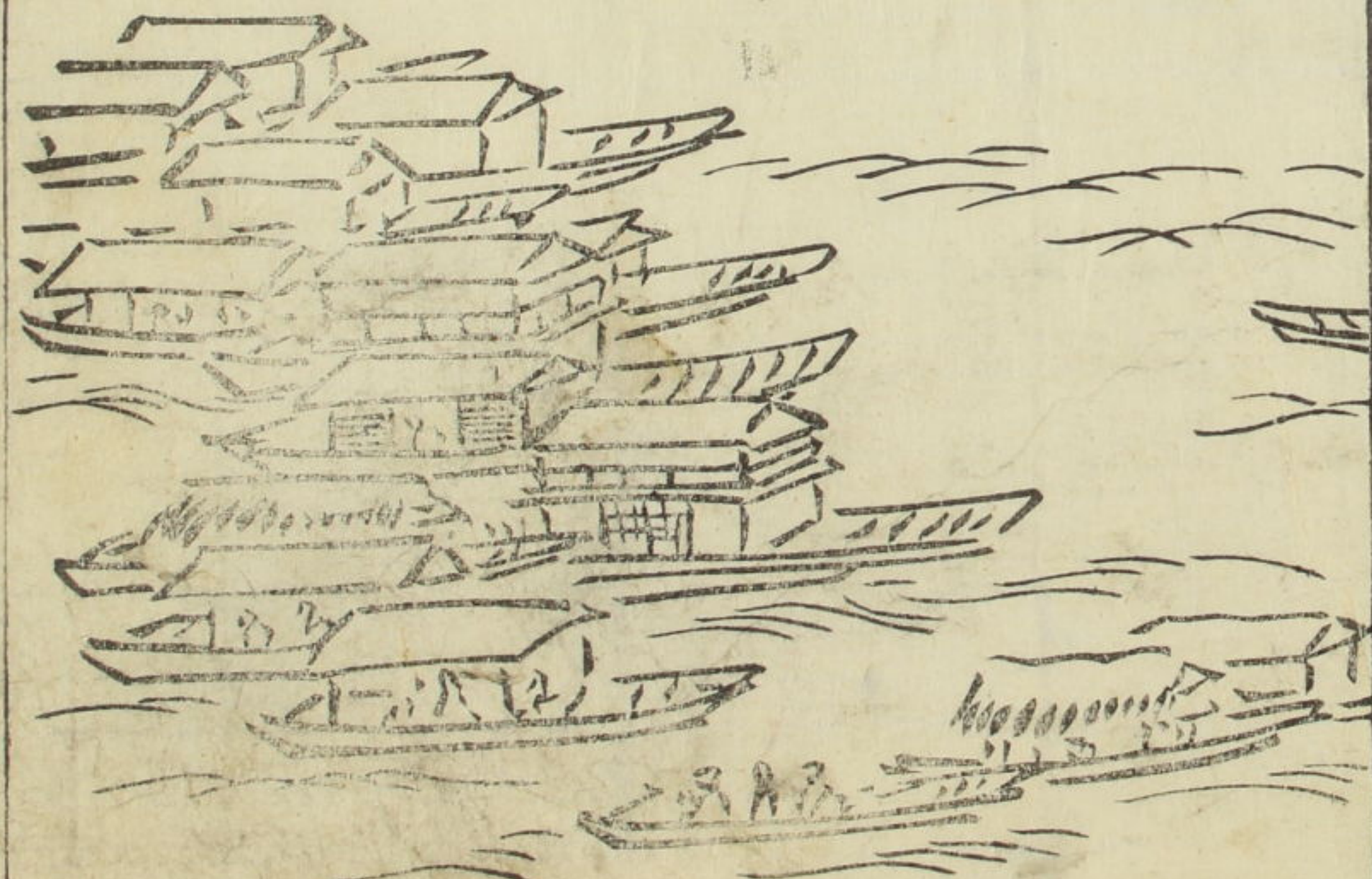
勢と見ゆきいほきとらふと知つて
 志と玉いほきとらふと知つて
 少の合者あつてあつてあつて
 驅つて直つて讀つていほきとらふと知つて
 といふけいあつてあつてあつて
 安んずるといふといふといふ
 火農見立と措つて通つてあつてあつて
 小つていほきとらふといふといふ

物川のあつて火瀑の色乃螢とらふ箱燈燈の
 を逐つてあつてあつてあつてあつてあつて
 とらふといふ一言つてあつてあつてあつて
 口惜といふといふ一語つてあつてあつてあつて
 中斷あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 盡んといふといふあつてあつてあつてあつて
 火と膝と膝とあつてあつてあつてあつてあつて
 美と見付あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 知つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

叙
夕

意
九
尺

半
乙

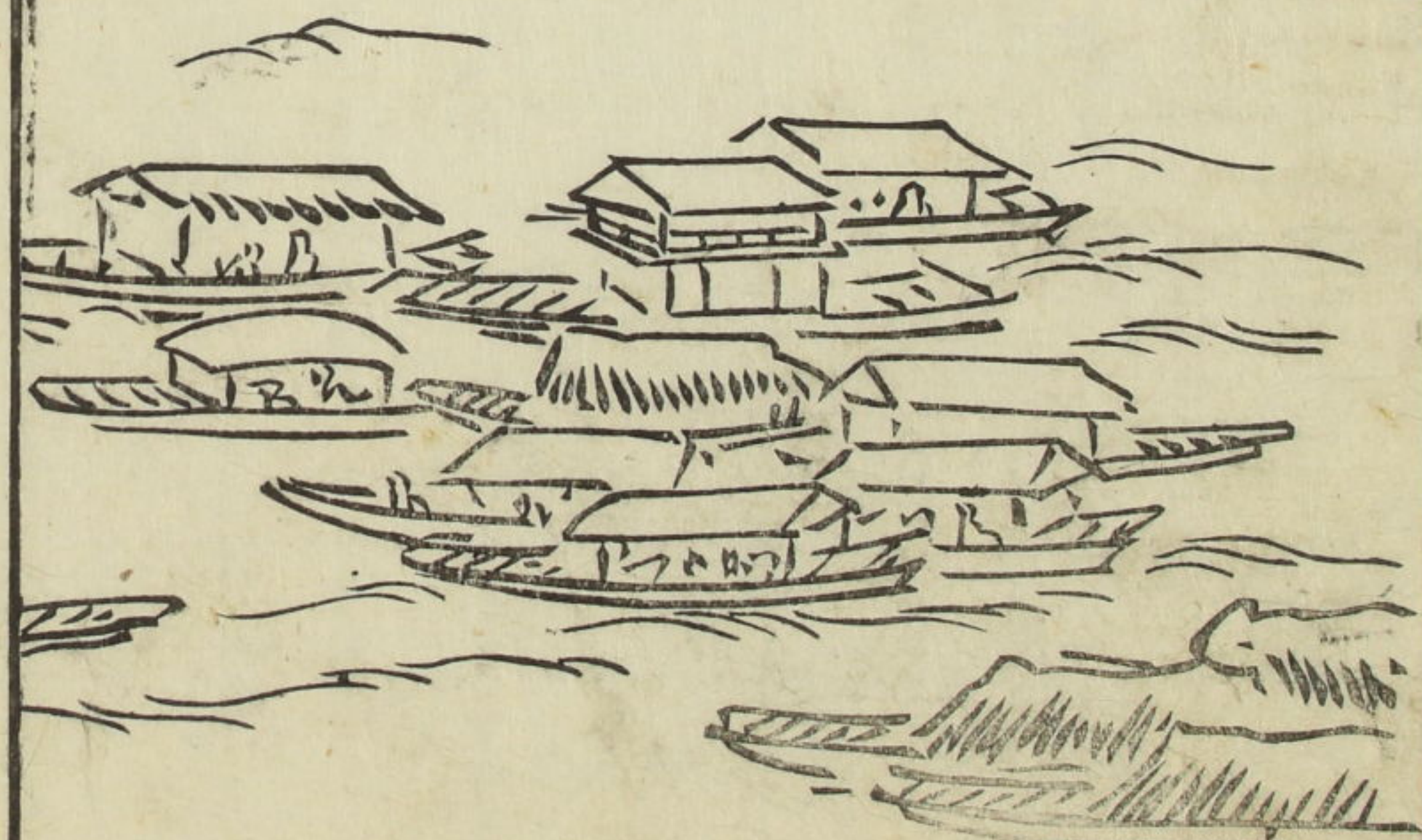


▲八三十一

与
一
舟

舟
八

舟
八



かゝるふゆふ

問「あ

是くは

はくは

一

一子舎



▲八三十二

易を

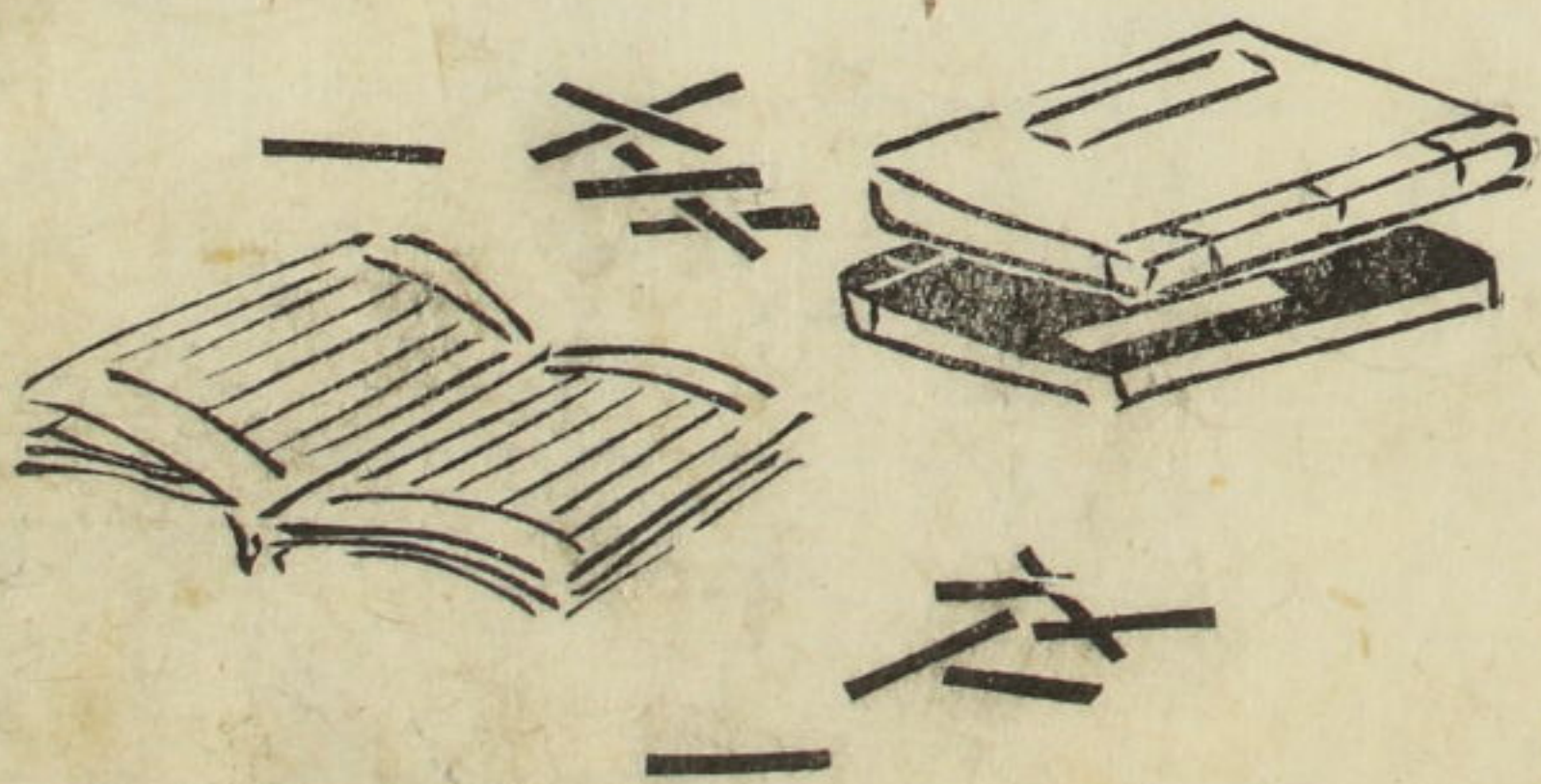
賣

と

かゝる

人免の

た



河列青道館

文水



岁年
 何
 山
 白
 一
 三宅

此文齋
 一
 芭



▲八三十三



河列北大友

臨江軒

柏船

群之松

碧山白鷗

桃島海





八三十四





常々酌や
 皇月如玉か



八三五

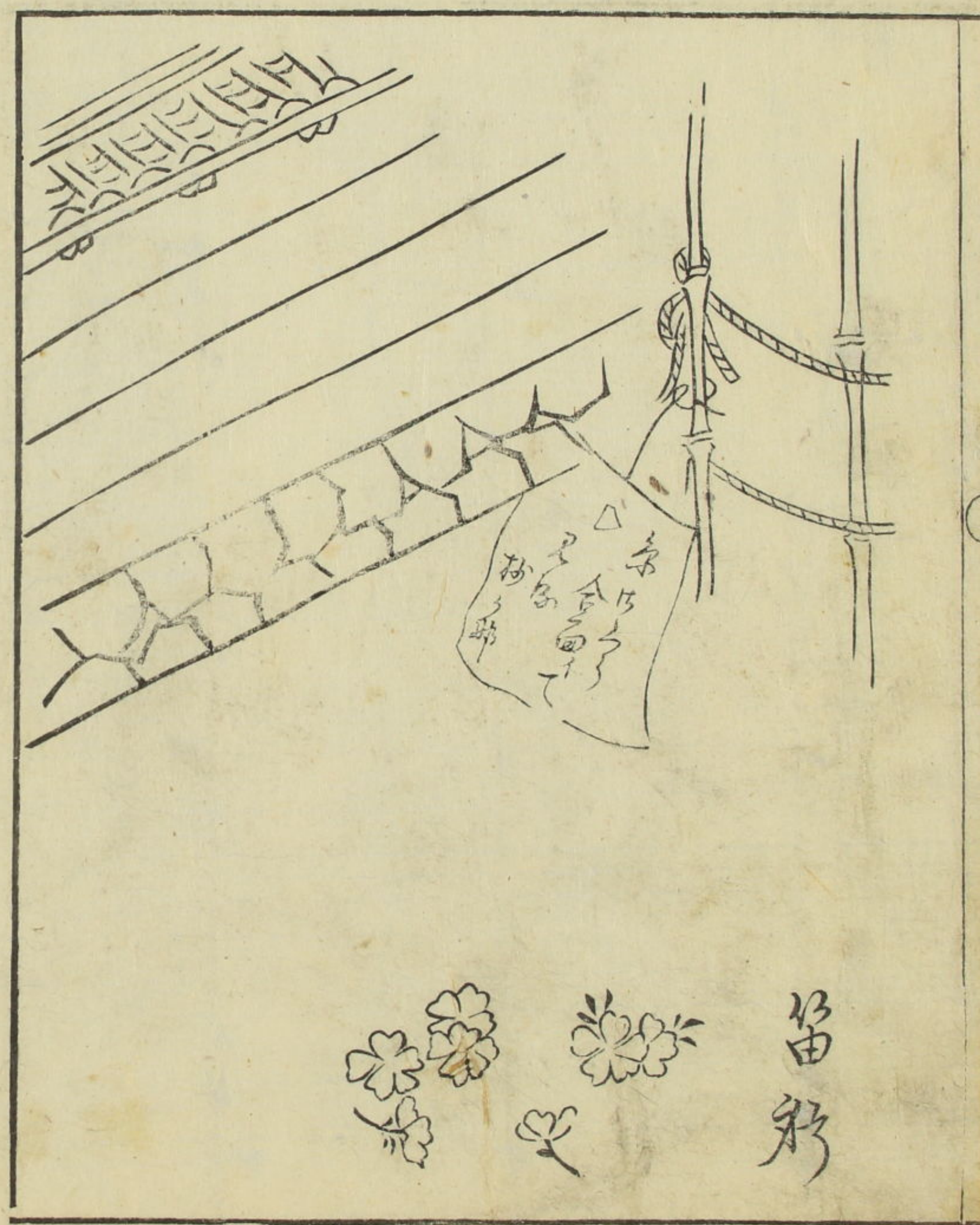
千鶴花
 應律



君来
 子
 如也
 如也
 如也

藤野井氏女
 紋子





徳虎堂

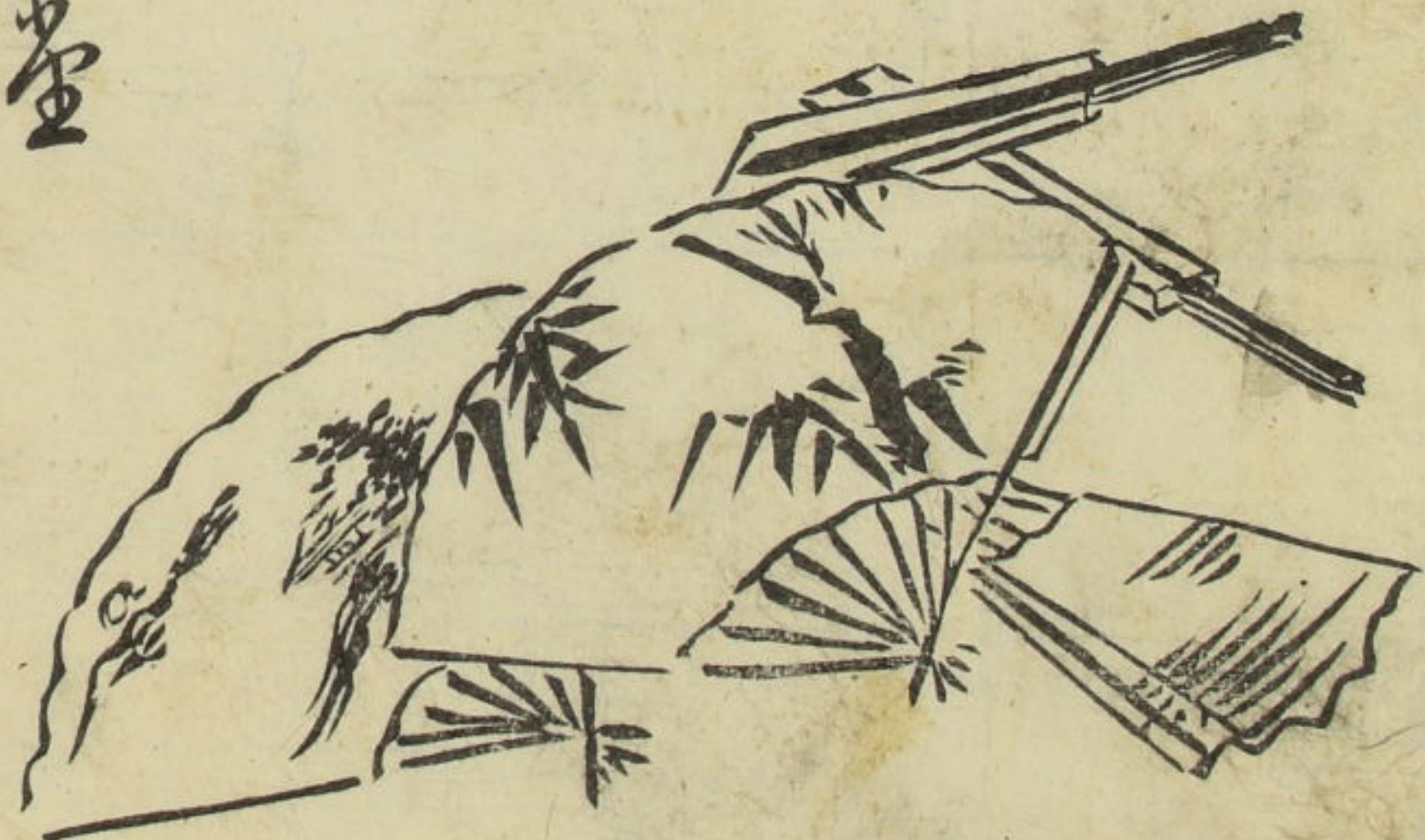
鶴鼻

ふゆは

風穴

見よや

御影堂



たの録をえんは貴賤をばし
も希なるくゆり中より入るは
もつと煮の尾とくん

寸とゆき

名ハ

虎の

尾ハ

女中

幕



亀洞





菊之取中

己々自採り

狐の文

羅上



金龍るも

内うり

旅泊の

暇に

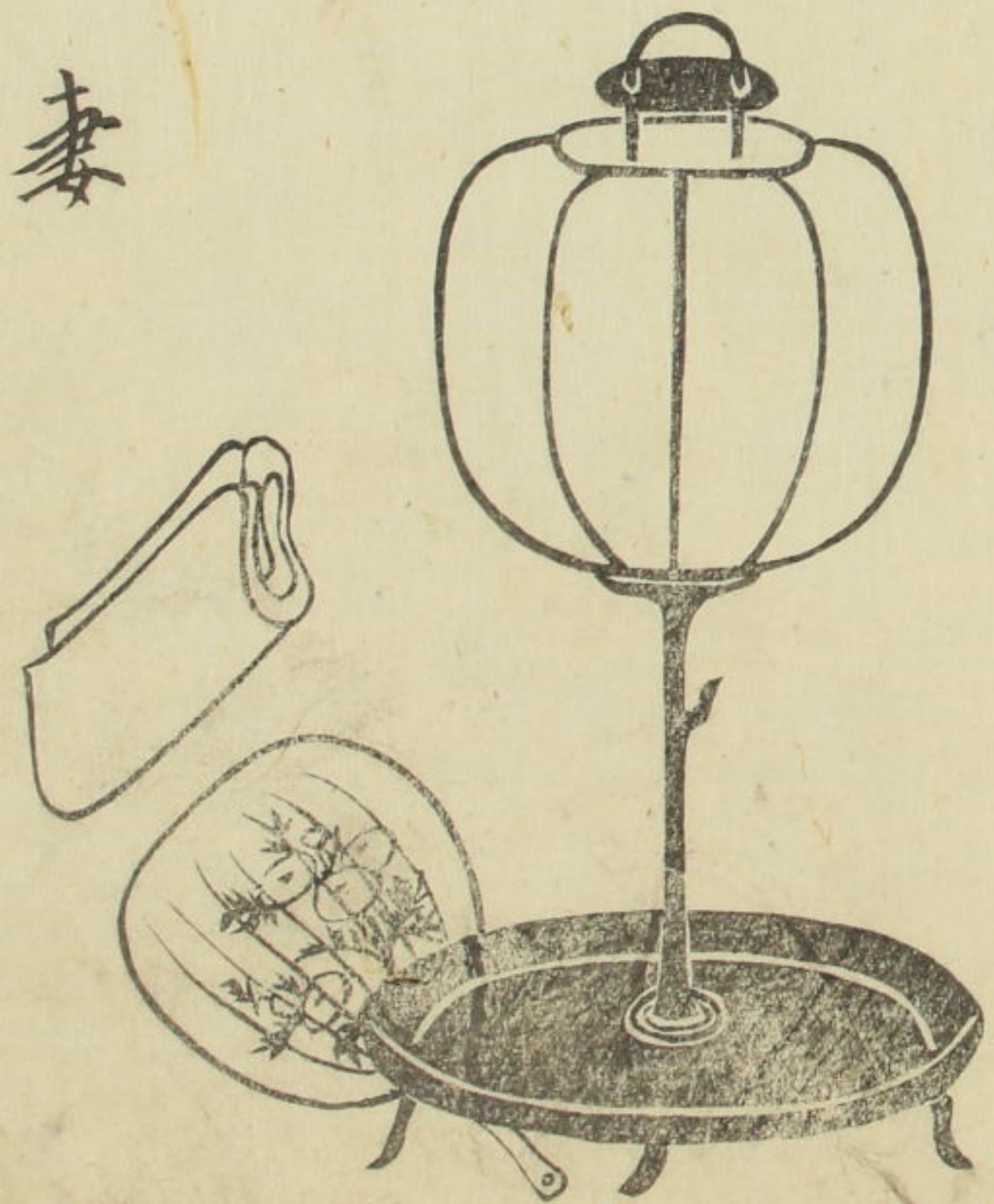
衆をき

何ふつのかた

産

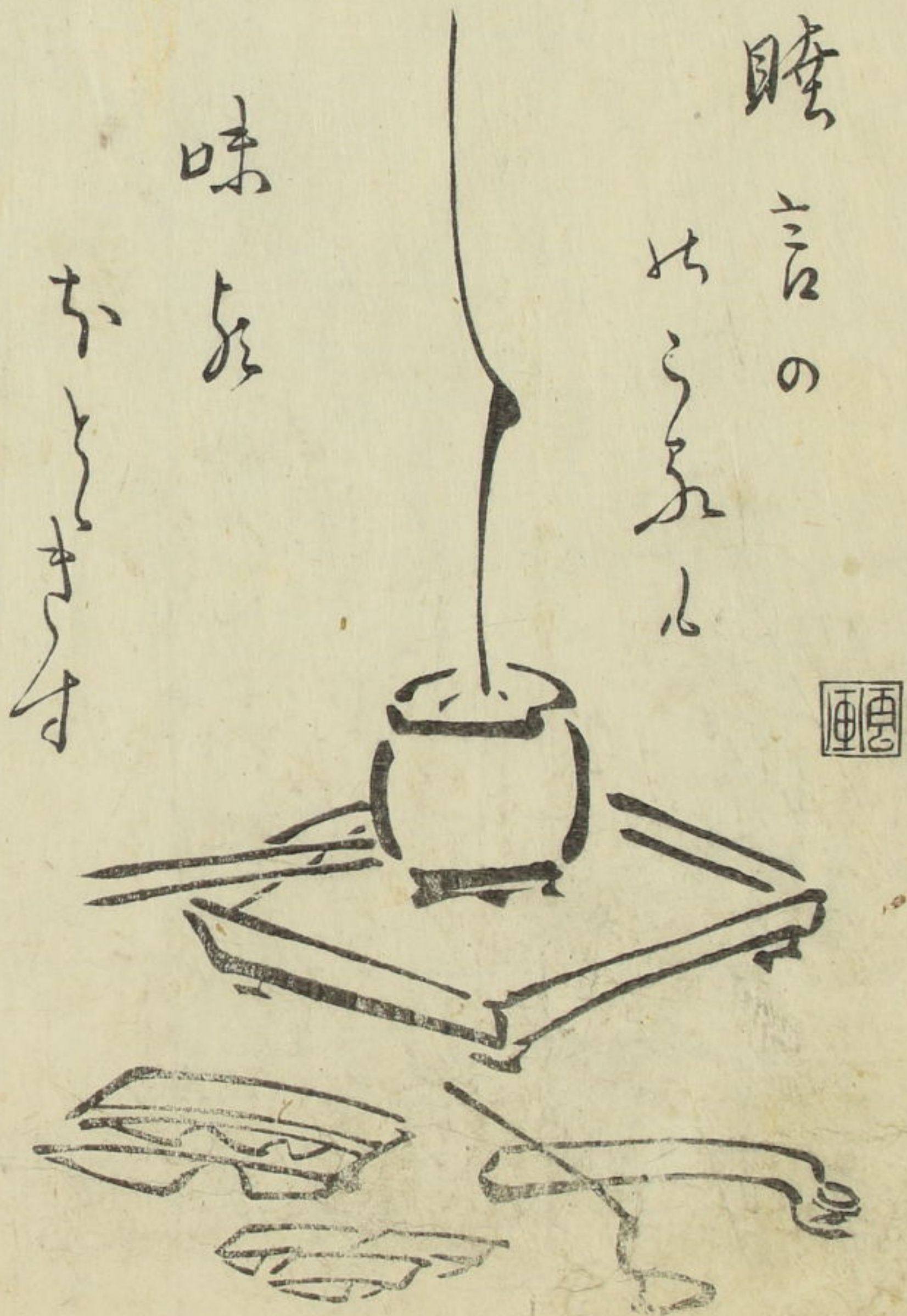
千路莊

朝
 白法
 きのり
 露と
 一夜妻



其章自画

▲八三十九



睦
 言の

如るる

味
 水

ちとさ

叔雅



子瑞

世子

勢州上野

棘雙全

冠之

為本如之



八四十一



下れを子

掠乃

海を

かくま

り

ゆき

ゆ

奥丈



吹竇よとてさしなを花周のまゝに解は
 せしむるは信をばしと樂はたれおはは神のまゝ
 なるるがへ一盃の酒は只ちのまゝとちのまゝ
 附魔の大おるへ一ふ金をと握りて旅さ
 せんか方は市に考りて一ぬうけはし
 けしはとてははのりきみとちのまゝ
 ちのまゝ

竹 題 や 花 々 々

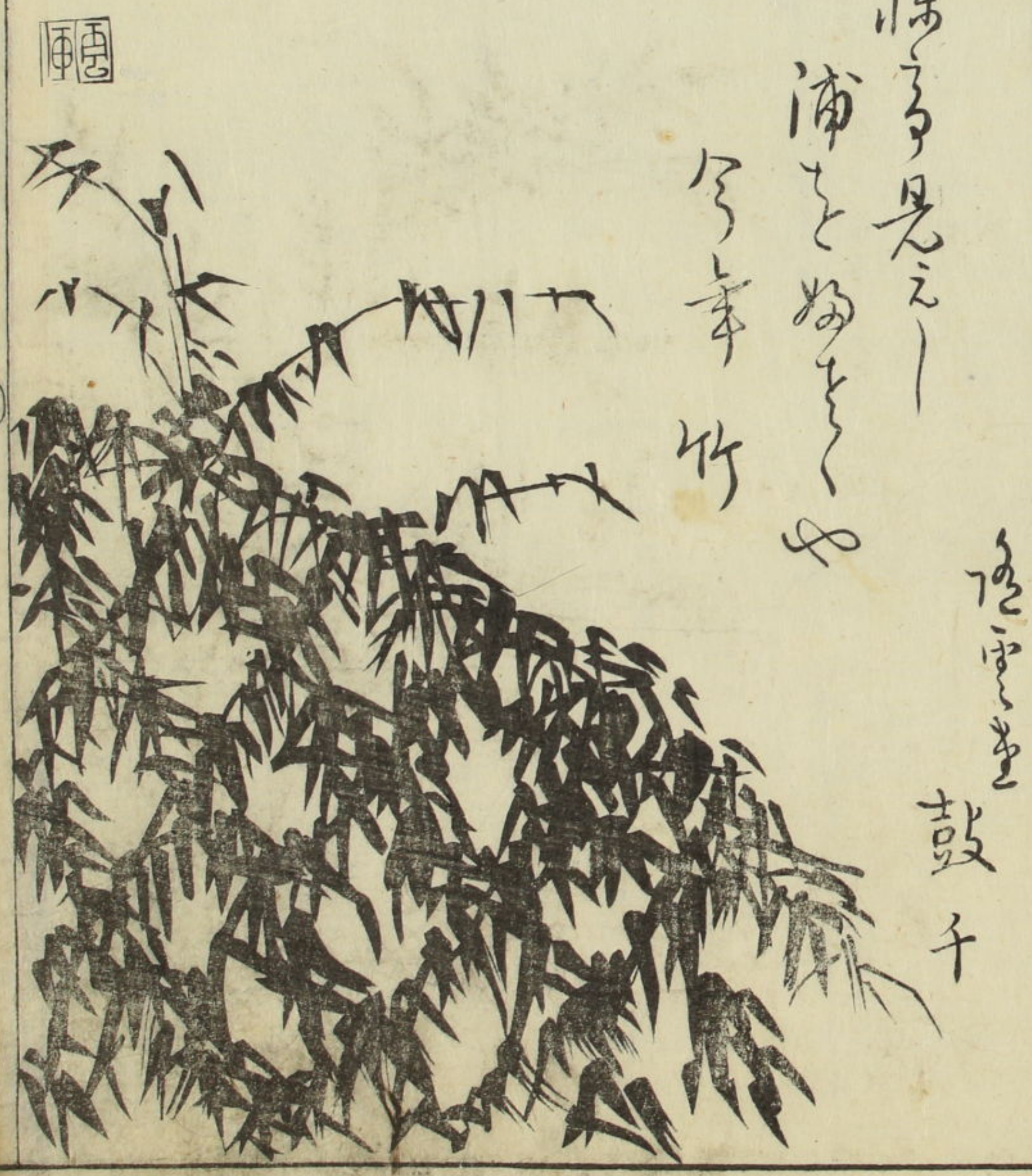
毛公のこゝ 教

星 照 中 野 見 人

春 三

花 の 菊 中





宿多見之
 浦を好む
 今幸竹

竹の葉

鼓子



降うと葉々雨見は
 竹葉の如く

尾鷲

入相

余夢

西花

阿人

杜若



白菊



多智小子供乃

喧しき中身者

増りて志をくま

枕をとれを

晝農夢

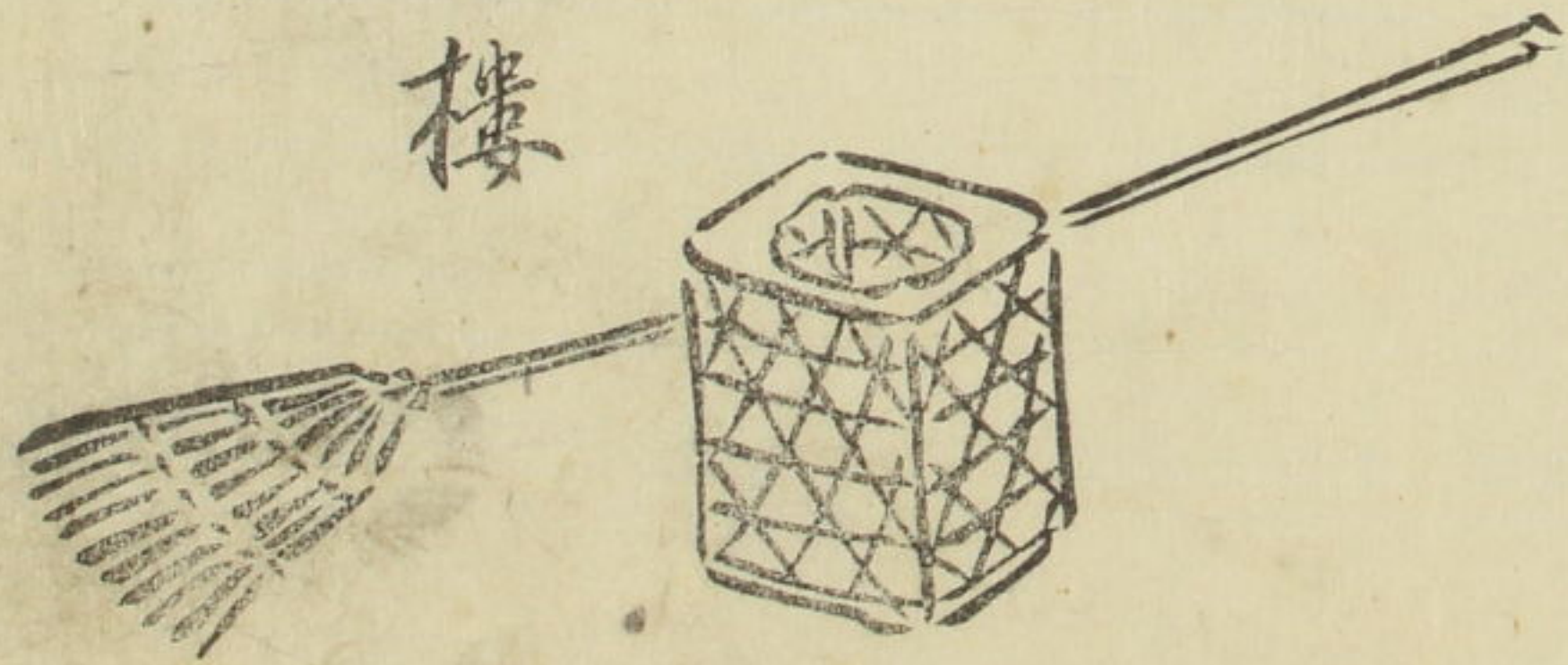
洪臨亭

五樓

あし

あし

蟬さのり

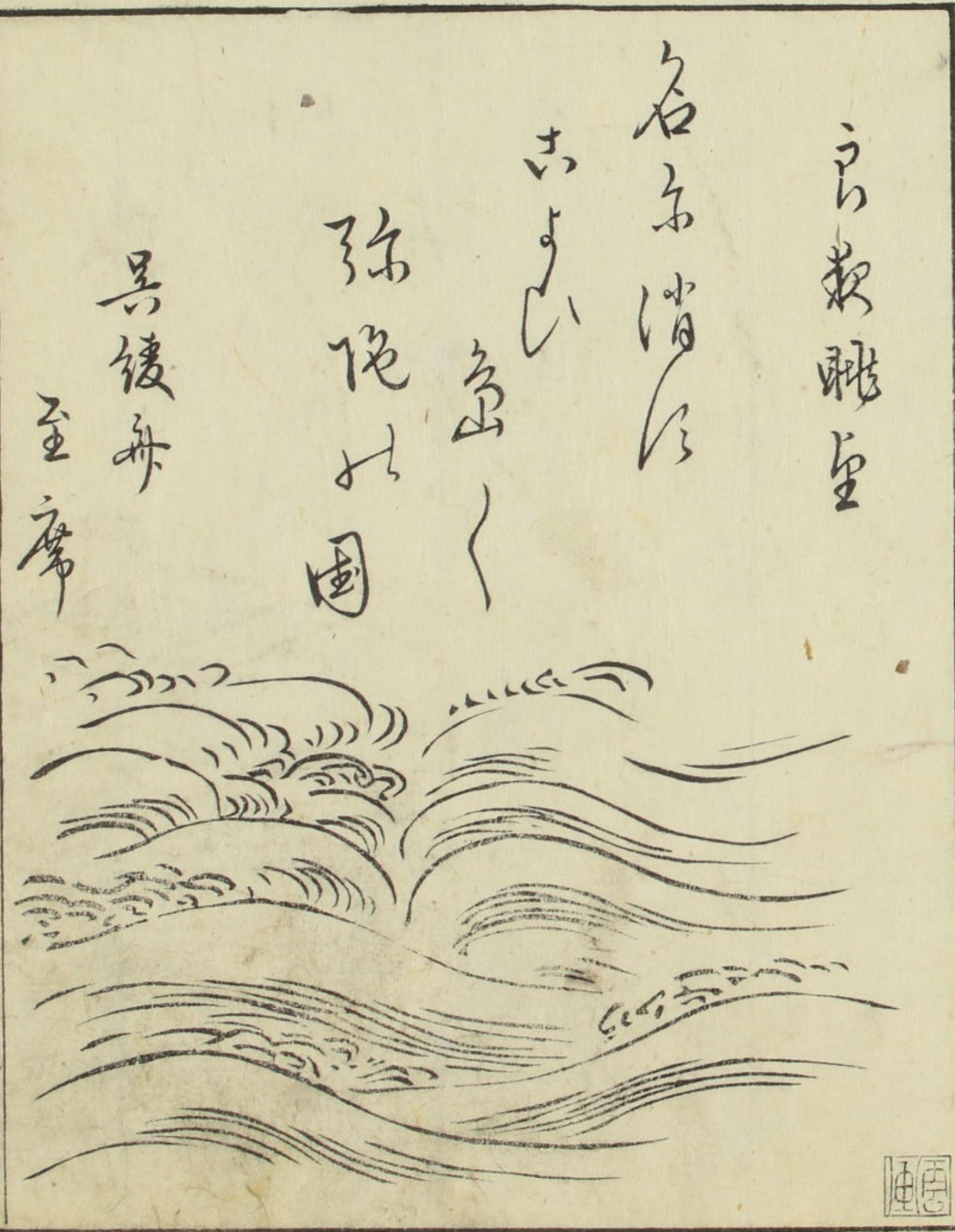


中
 婦
 女
 之
 形
 也
 同
 書
 乾
 車
 圖

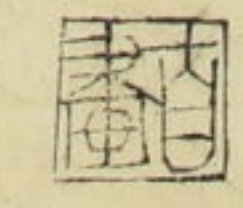
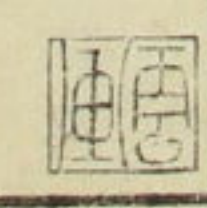


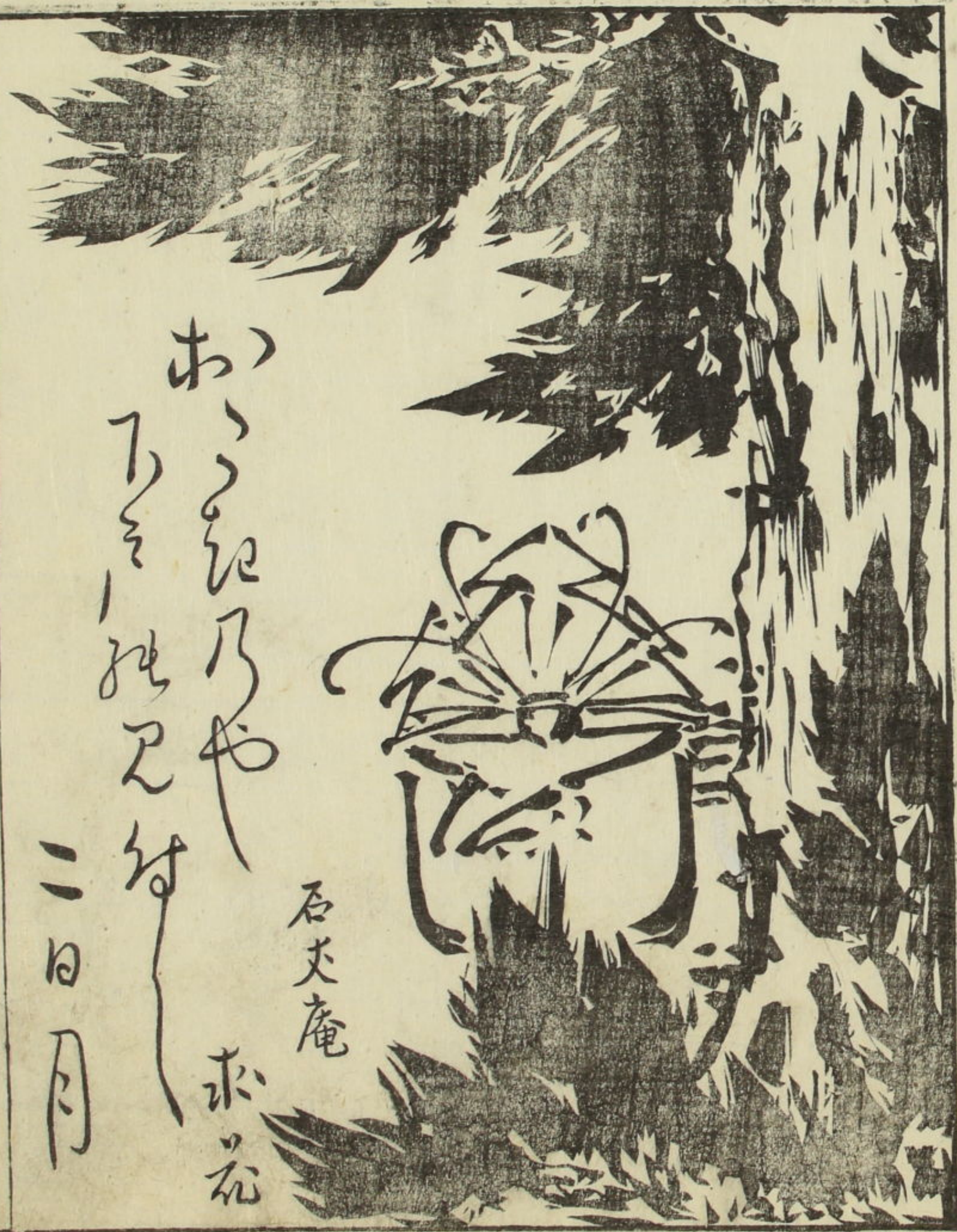
海
 人
 事
 中
 玉
 其





▲八四十六





おのゝ記乃也
 下等、能見付
 二月月
 石火庵
 永元



騎
 鶴

乃
 鐘

枯
 中

廣
 々
 江

野
 々

之
 々

夕陽や

ちり涼一

油賣

鳥路觀



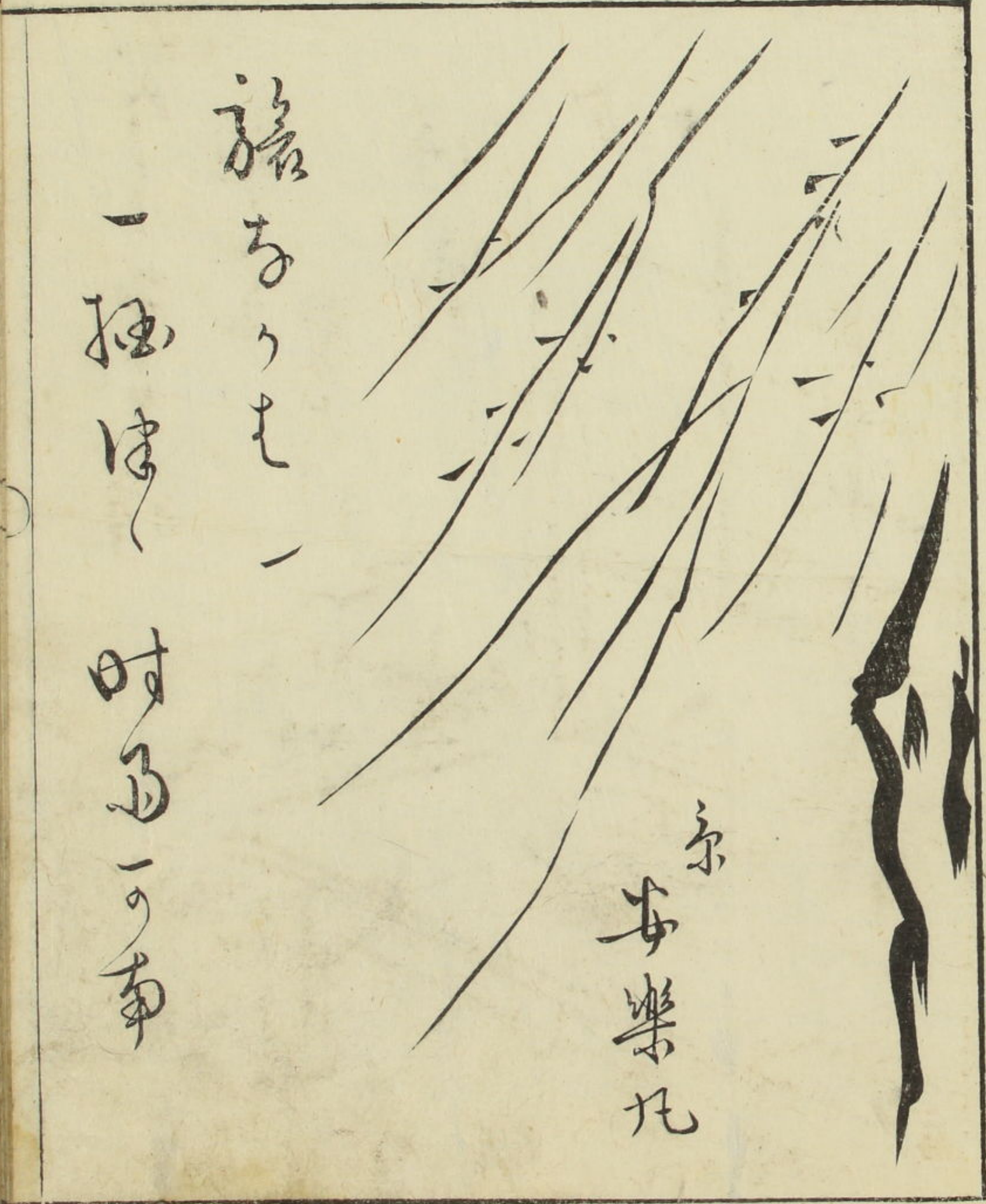
植松堂ソ井上歌

丁固り腹みハ夢より生ひて
仕官を喜ぶ志あり
厝鳴り園み現る植松
天慈と樂しむとてかたむ

いほきり懸と一き
いほきり索と一た
太交箱崎と志ありるはれ
叙文身崎と志ありるはれ
自ラ是りとせよ
自ラ是りと能ん 叙文

菟弱瓜 不死のうらや

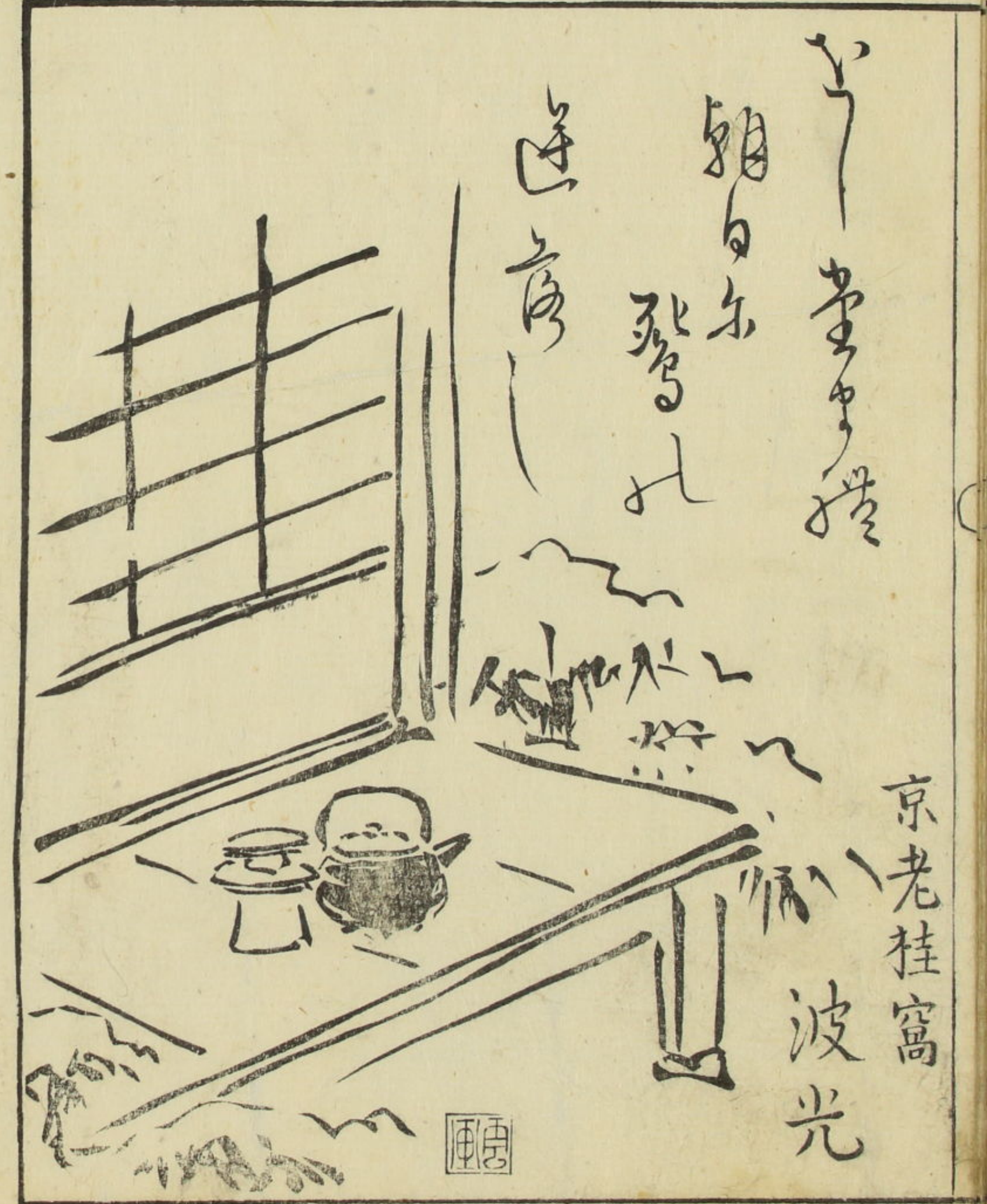
去農花



一 揺は
 時 一
 一 揺は
 時 一

糸
 安樂丸

▲八四十九



一 揺は
 時 一

京老桂窩
 波光

唐

梅一葉
 梅の心
 市々々々
 三里

右京橋より西の場



洛
 風羊

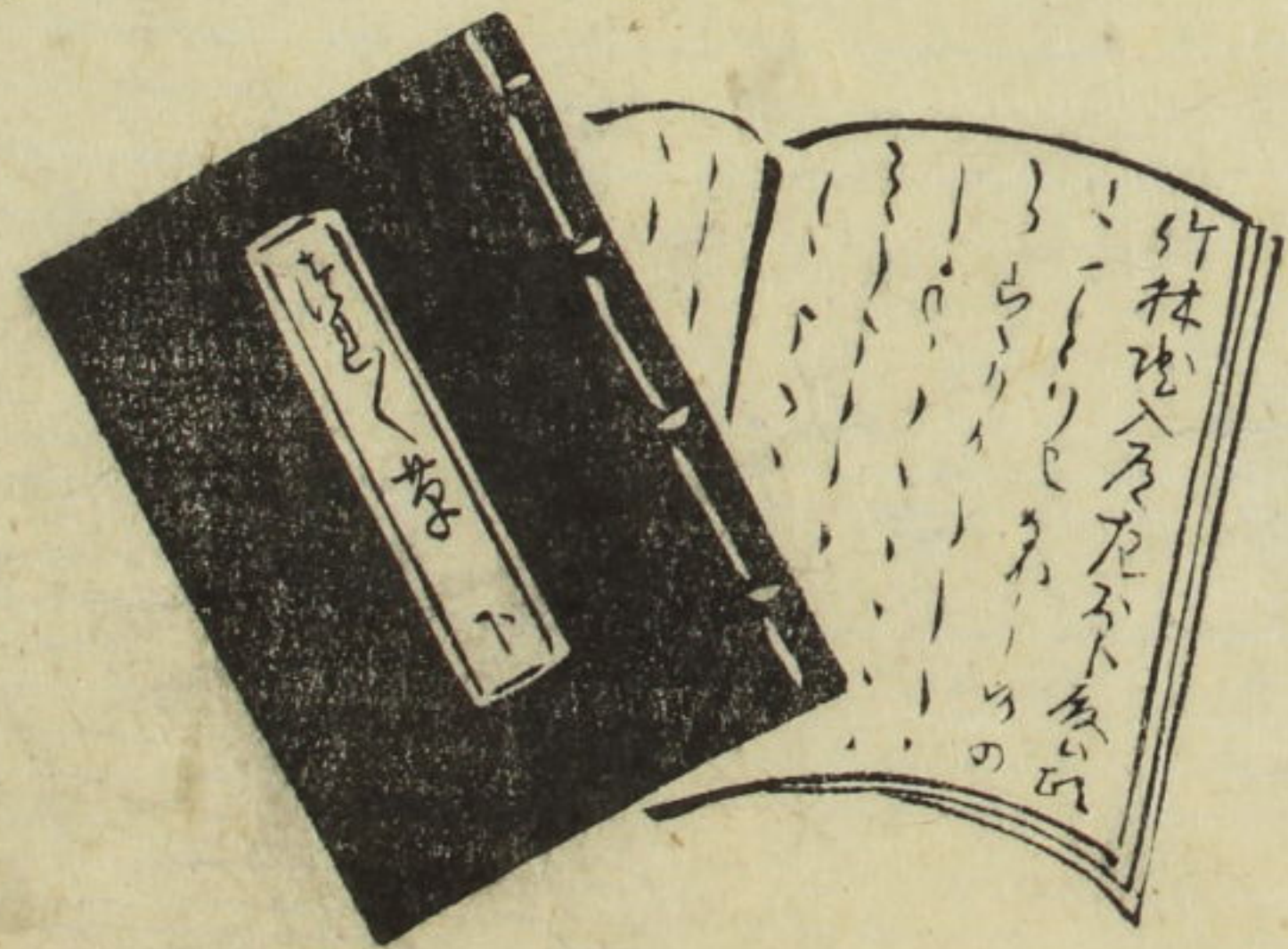
▲八五十

海鳥や
 山時多
 松多好



京
 高月

六賢
 八日
 菊の
 堂とハ



増名

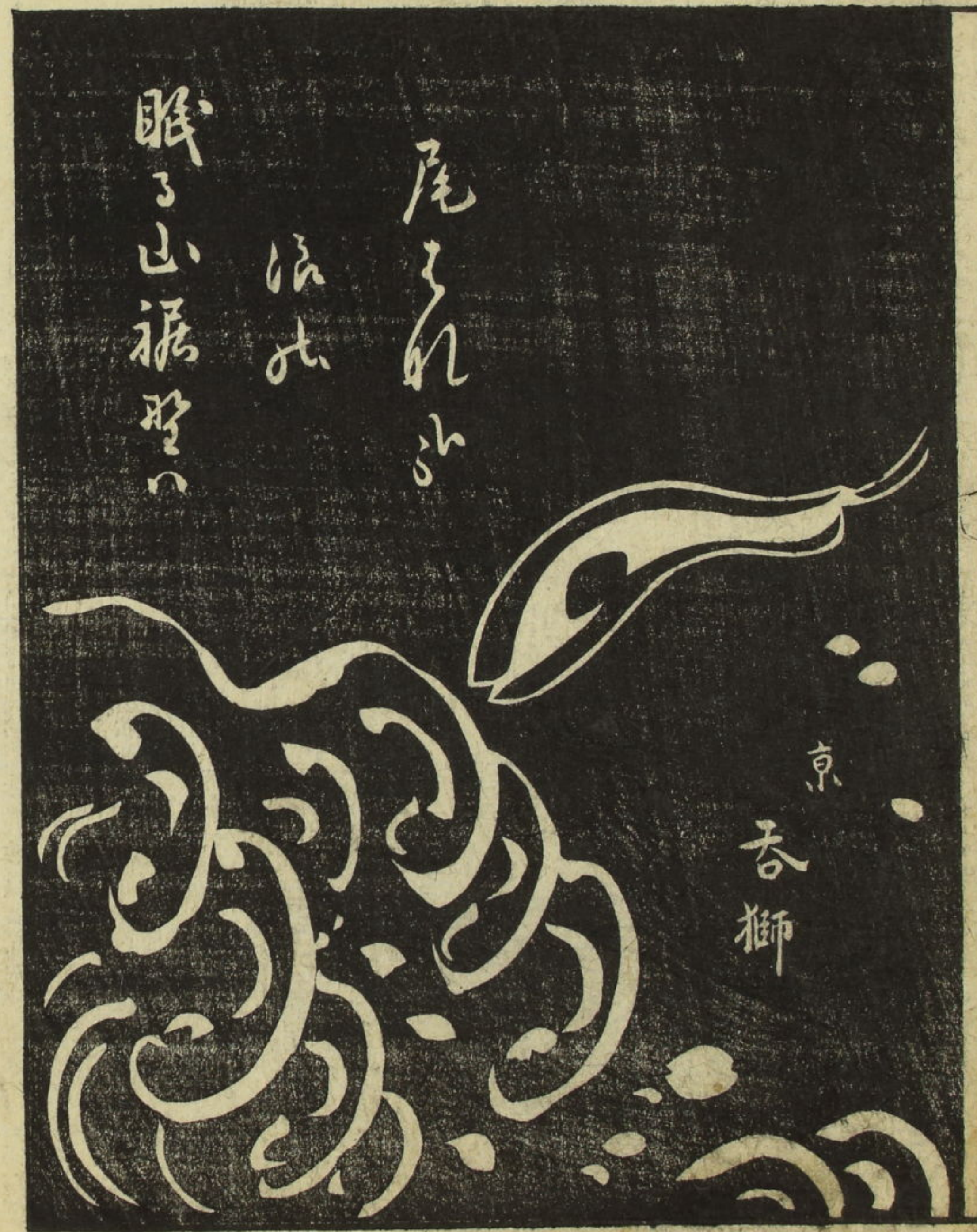


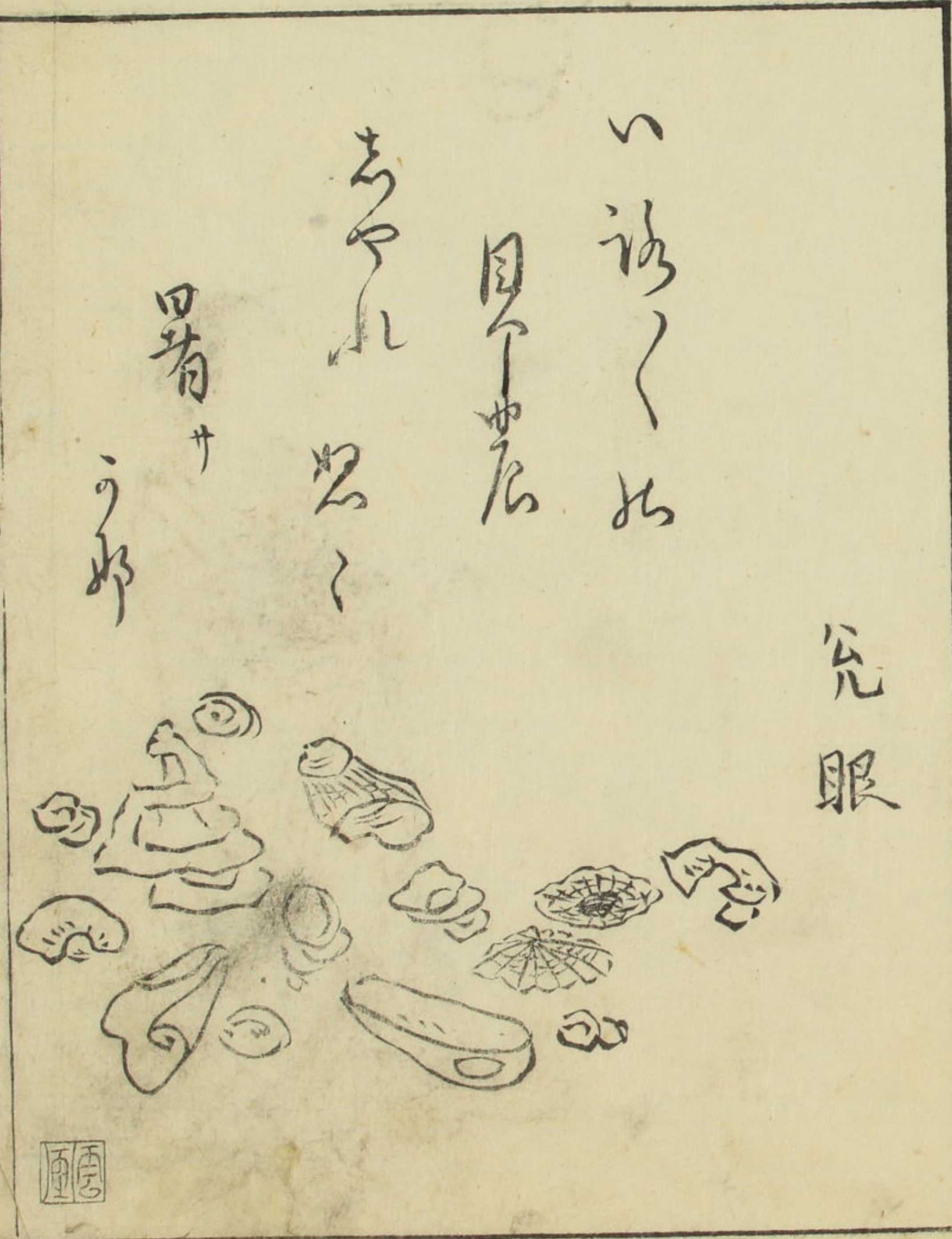
汗と塩
 水と湯
 白陽寫

雄下

琴泉







目一也
 ちやれ
 暑サ
 うね

兎
 眼

▲八五十三



9

見ふ人
 一帯
 夕雲雀
 叙夕

田田

東為画
福



名多老之

如
女
宮
如
美

如冠



嘉祥
袋

見
と
よ

笑
ハ
ミ

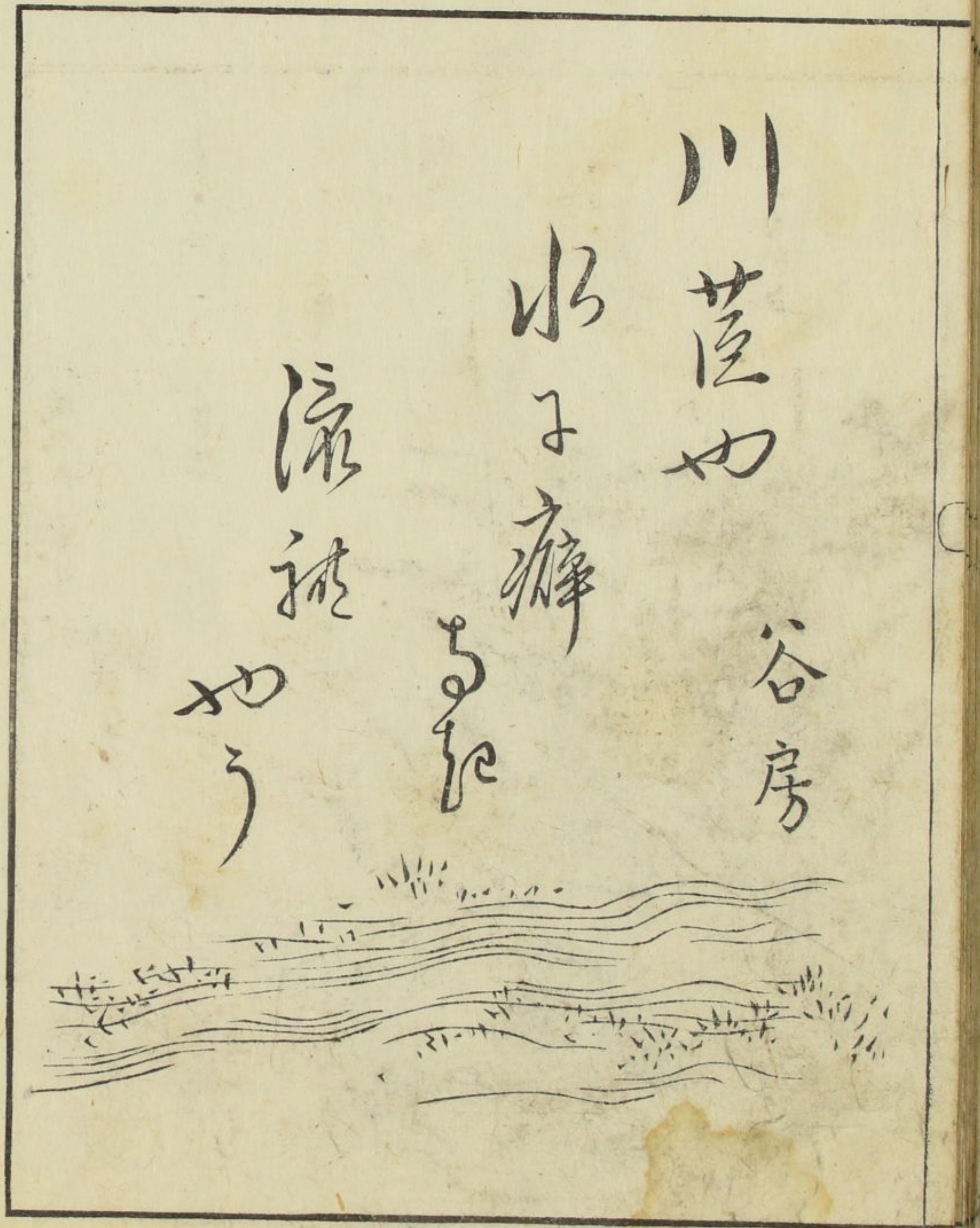
松井
紫
柄





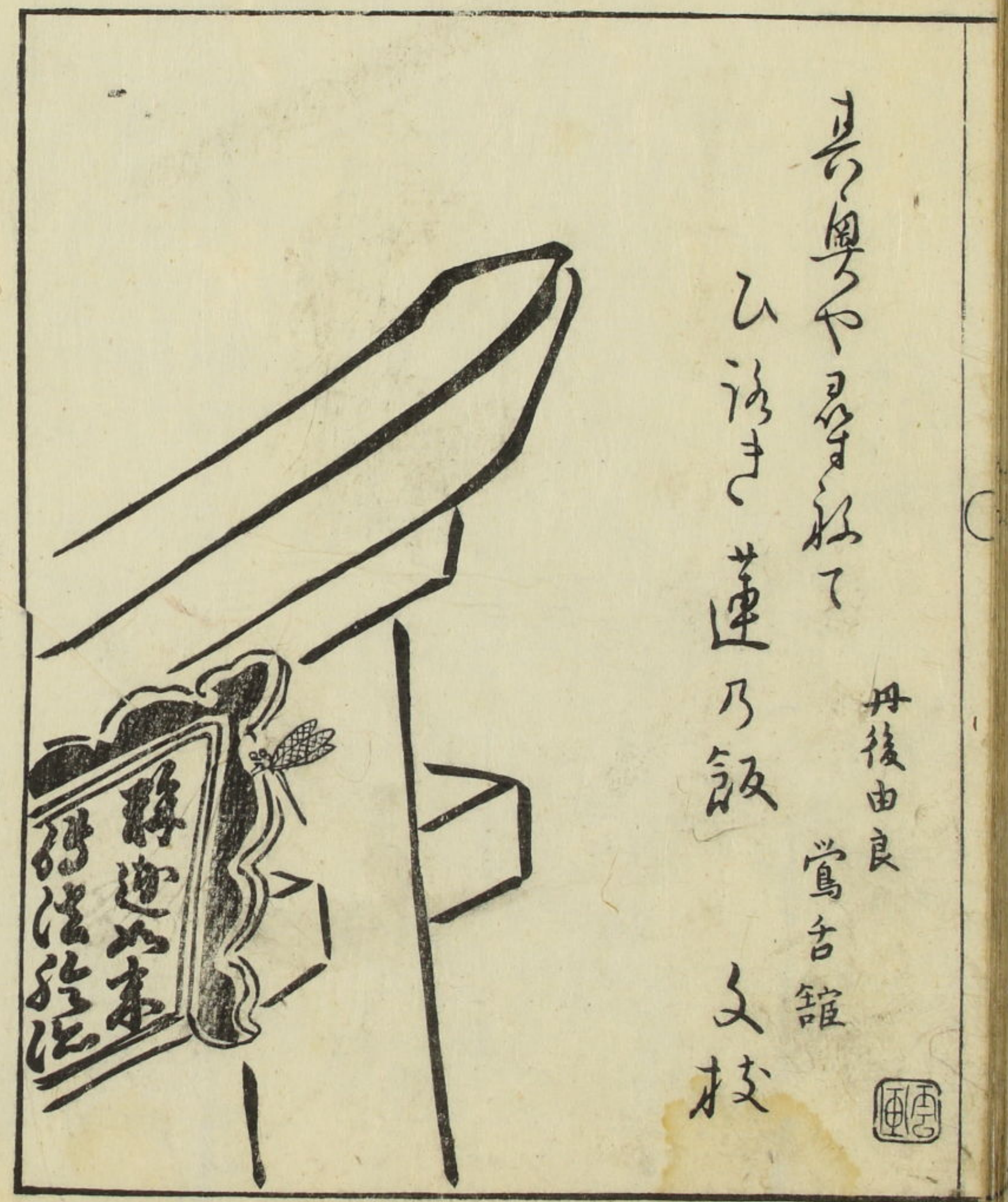
丹後由良 風搖館
 礎 幸
 人 之
 見 之
 如 葉
 之 子

丹後由良 風搖館
 礎 幸



川 茫 也
 水 子 癡
 流 轉
 如 之
 谷 房

丹後由良
 鶯舌館
 長身之器
 乙流之蓮乃飯
 又枝



▲八五十六

風鈴を握り
 保と多



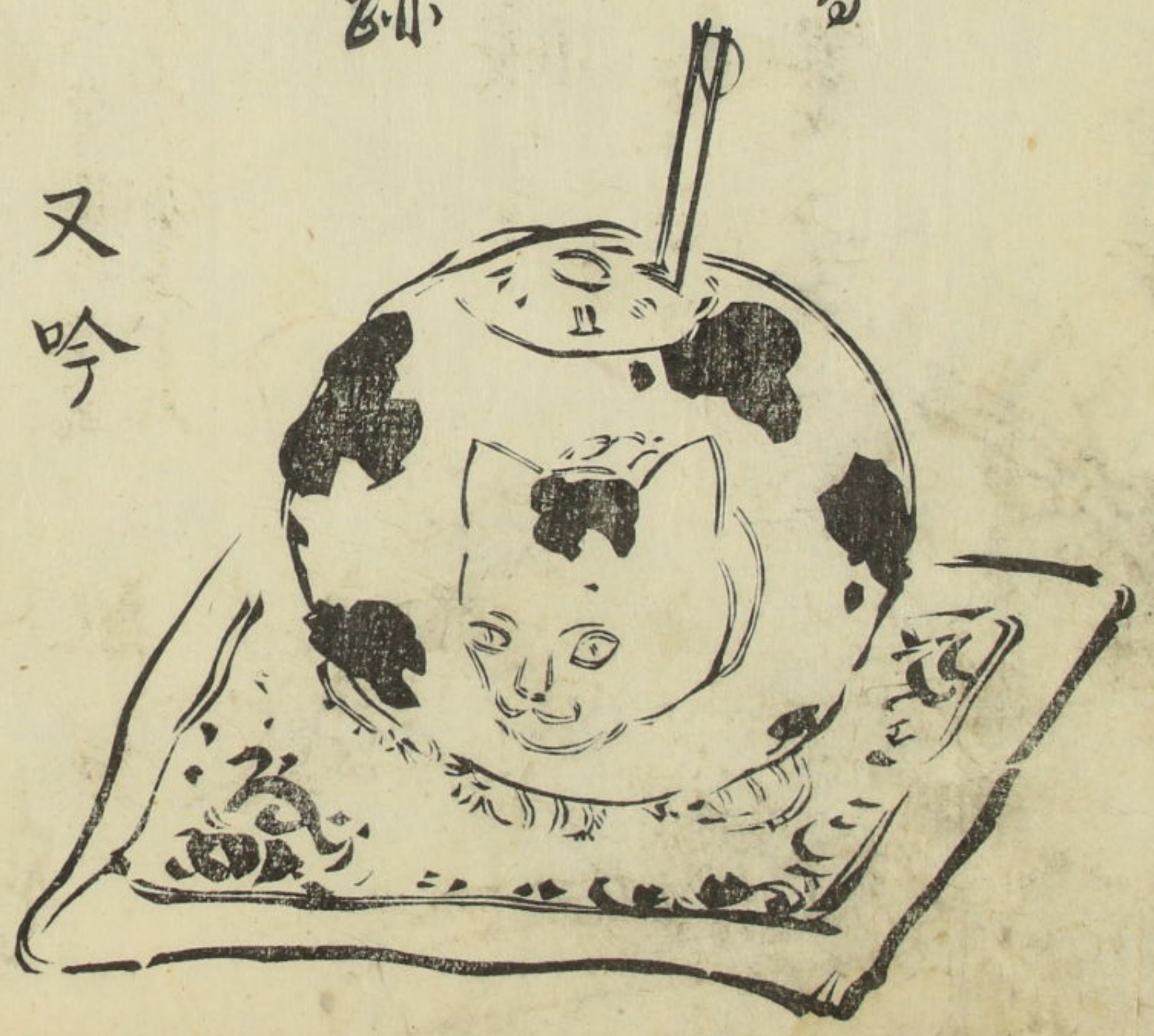
閑唐

初音也

舞之鳥

櫛乃

斗岩跡



又吟

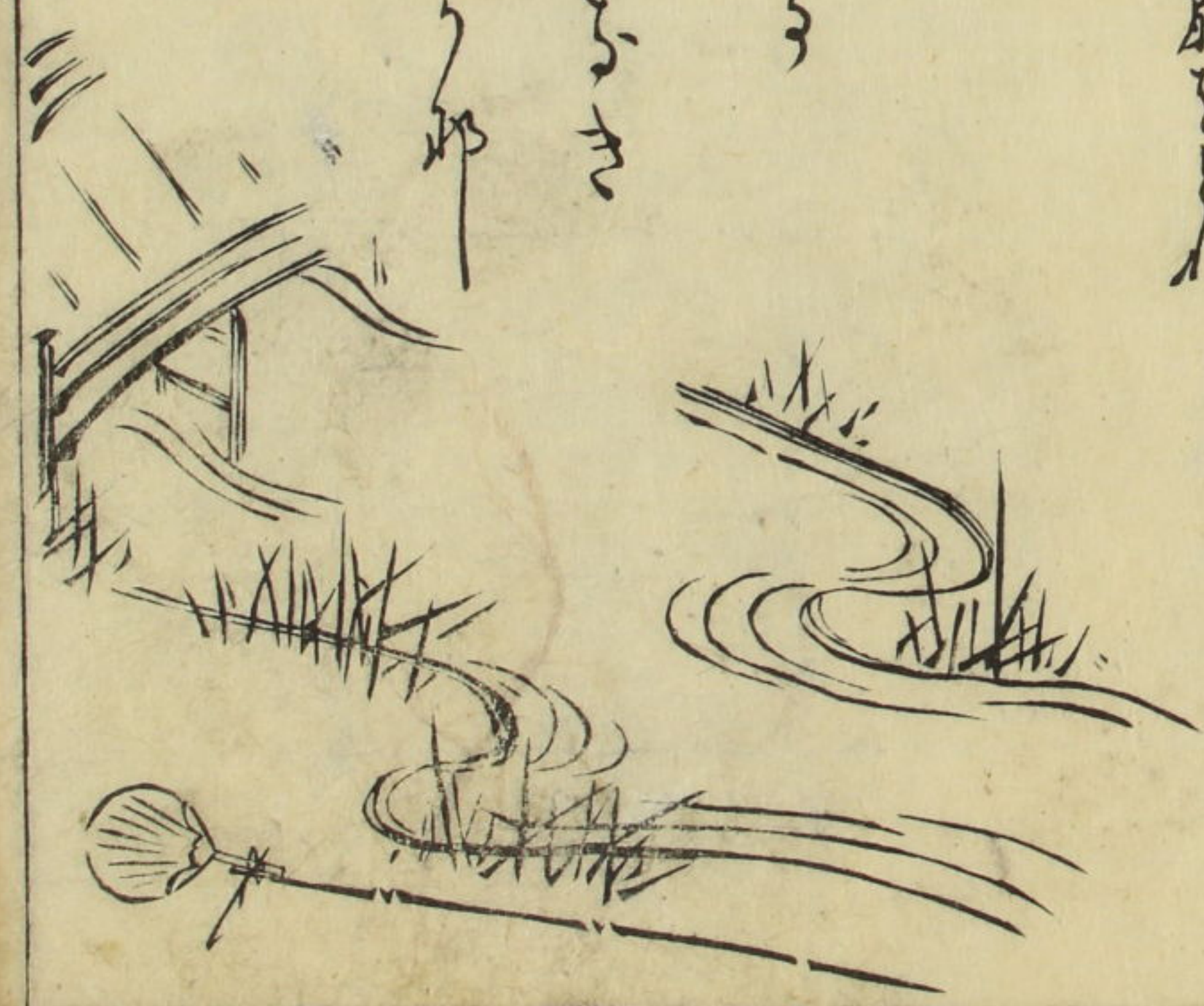


五月望六齋橋乃流虫
を撲んと小扇をとん
とる形一

空を 曠々

舛ハ 尾なき

曇ク郎



駝 桺

古雪

人日

雪残石

生駒を

夕小農

節會

う角



都秋

逢坂へ

来り

待宵乃

月毛

卦

冠柳



▲八五十八

十三乃州野姑

古河り巻

海や

志



江流

▲八五十九

印地折



軒子ねと人

婆哉

炬良





金波

桃
裏
城
織
月



蟻得

給
う
如

そ
明
う
に

教の席を
 まゝり初花乃
 影成る
 杉葉より芥
 振あけ次
 花一本

伊丹
 博房



馬
 出
 梅
 握
 出
 女
 ね

武淵



文移七

足之

此花

此花

草以節

水軒
自画

八十二



汁船也

丁稚

四五人

草花

彩羽亭

桐磨

句ハ青〜海子影ありき
 春風〜雲の影ありき
 是時平〜花白毛又〜花
 句ハ青〜花を袖着て
 以置〜人物の影あり
 以置〜花を袖あり



松子新影子あいのり
雪免津いじり舞一子
長八子何風を鬼子隊
馬のい今新影のさ
百年のいあーいあ
あいのりあいのりあ

あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ
あいのりあいのりあ

乃於一之... 嘉也

子叙文



